

鳥帽子会会報

2013年秋号 Vol.55



新館夜景

■ 大学首脳人事	3p
■ 教授退任挨拶	5p
■ 研究奨励賞論文抄録	9p
■ 平成24年度評議員会議事録	12p
■ 誌上公開講座	24p
■ 医学部同窓会諸表	42p

福岡大学医学部同窓会

目 次

・大学首脳人事	3
・会長挨拶	高 木 忠 博 3
・結婚支援・縁結びサイトのご案内	田 野 茂 樹 4
・教授退任挨拶	
退任の挨拶	平 塚 義 治 5
・総会報告	
第 32 回烏帽子会総会報告	武 田 卓 6
・研究奨励賞	
平成 25 年度研究奨励賞選考報告	竹 下 盛 重 8
・平成 25 年度授賞論文抄録	
マウス虚血肢モデルにおける CD11 b 陽性細胞由来	
VEGF-C の虚血改善効果 (論文)	桑 原 豪 9
通常型間質性肺炎および非特異性間質性肺炎における	
線維芽細胞増生巣 (fibroblastic foci) と予後に関する検討 (論文)	原 田 泰 志 9
冠動脈疾患の有無から見た透析患者の脂質代謝の特徴 (論文)	福 島 幹 生 10
Effect of intravenous adrenaline before arrival	
at the hospital in out-of-hospital cardiac arrest (論文)	町 田 稔 10
Comparison of the efficacy and safety of irbesartan and	
olmesartan in Patients with hypertension(EARTH study) (論文)	森 井 誠 士 11
・平成 26 年度研究奨励賞募集要項	11
・平成 24 年度評議員会議事録	12
・在外研修報告	
在外研修留学報告	多根井 智 紀 19
ボストン研修を終えて	北 村 由衣子 20
ボストン医療研修	大 西 菜 月 21
ボストン留学を終えて	中 田 安 香 21
在外研修援助金受給者一覧	23
・在外研修援助金募集要項	23
・誌上公開講座	
内科診断学の心 ― William Osler とその時代に学ぶ―	鍋 島 茂 樹 24
・学生対策報告	
同窓会主催 国試対策講演会報告	重 田 正 義 26
平成 25 年度烏帽子会主催福岡大学医学部 M4 年生激励会を終えて	竹 下 盛 重 27
・支部便り	
筑後支部便り	宿 里 芳 孝 29
・同窓生交歓	
縁と恩 ― 剣道部創立 40 周年記念祝賀会―	淵 野 泰 秀 30
・会員寄稿	
日本の文化発見 in Tokyo	正 木 稔 子 32
TOP TEN Students (ΦBK Students) に期待して	朔 啓 二 郎 34
6 年間を振り返って	竹 山 文 徳 35
・キャンパスだより	
烏帽子会賞を受賞して	梅 谷 啓 太 36
競泳を続ける気持ち	高 岡 千 容 37
フットサルを通じての体験	佐 倉 悠 介 38
準硬式野球部	大 澤 慎 39
続けてよかった	高 橋 篤 史 40
・医学部同窓会諸表／医局長・医長名簿	42 ～ 44
・教育職員人事／編集後記	45

大学首脳人事

大学首脳人事

(関係分抜粋・就任はいずれも 12 月 1 日)

学 長	衛 藤 卓 也 (商学部)
副学長	今 泉 博 国 (経済学部)
	馬 本 誠 也 (人文学部)
	畠 田 公 明 (法学部)
	内 藤 正 俊 (医学部・整形外科)
医学部長	朔 啓二郎 (心臓・血管内科学)
福岡大学病院長	田 村 和 夫 (腫瘍・血液・感染症内科学)
福岡大学筑紫病院長	向 野 利 寛 (眼科)

会長挨拶

朔医学部長の誕生

烏帽子会 会長 高 木 忠 博 (1 回生 脳神経外科クリニック高木 院長)



福岡大学医学部創設から卒業生が出て以来 35 年目に一期生の朔啓二郎教授が、第 11 代医学部長に選出されました。

これは、烏帽子会にとって歴史的な出来事であります。同窓生 3,720 人の代表として小生も大変感激しましたが、朔教授を含め我々卒業生にとって、母校への責任が今迄以上に大きくなったということであろうと思います。さらにこのことは、卒業生の母校への親近感と一体感を作り出す特効薬にもなることでしょう。

現在母校には、いろいろな問題が山積みして

おります。烏帽子会は、母校への応援団として全面的に協力してきましたので、その方針は今迄と全く変わらずに続けていかなければなりません。そして、苦言もこれまで通り厳しく提示していかなければならないと思います。

病院の体制も変化があり、福岡大学病院長に田村和夫先生、福岡大学筑紫病院長に向野利寛先生がご就任されました。

大学の仕事と同窓会の仕事をキチンと分けて、大学は「大学らしく」、同窓会は「同窓会らしく」、この「・・・らしくする」という言葉の持っている重さの感性を大切に母校ともに、同窓会は、新しいこの歴史的第一歩を皆で踏み出していきましょう。

結婚支援・縁結びサイトのご案内

烏帽子会ゆかりの方々の幸せなご結婚を応援します

常任理事 田 野 茂 樹 (6 回生)



秋の夜長ふっと寂しくなりませんか？

そんな時が結婚を考えるチャンスです。

大切な一生の伴侶をこの機会に見つけましょう。

人間の価値は家庭の暖かさで決まると言っても過言ではありません。

昨年 12 月より烏帽子会事業として結婚支援(烏帽子会縁結びサイト)をしております。

ところが未だ男性の登録がありません。

そこで男性の登録条件を変更いたしました。

男性：烏帽子会会員 会員の子ども・兄弟 会員以外(会員が責任持って紹介する人)

女性：烏帽子会会員 会員の子ども・姉妹です。
是非勇気を奮ってのご応募お待ちしております。

詳しい応募方法は別刷りにて案内しております。

“子どもと一緒に東京オリンピックを観ませんか”

まず会う事、何回も会う事

平成 26 年 医学部医学科入学試験の要点

	A 方式推薦	地域枠推薦	大学入試センター試験 利用入試	一般入試一次選考	センター試験利用入試二次選考 一般入試二次選考
出願期間	平成 25 年 11 月 1 日(金) ～ 9 日(土)	平成 25 年 11 月 1 日(金) ～ 9 日(土)	平成 26 年 1 月 6 日(月) ～ 17 日(金)	平成 26 年 1 月 6 日(月) ～ 17 日(金)	
試 験 日	平成 25 年 11 月 24 日(日)	平成 25 年 11 月 24 日(日)	大学入試センター試験 平成 26 年 1 月 18 日(土)・19 日(日)	平成 26 年 2 月 3 日(月)	平成 26 年 2 月 14 日(金)
試験科目	外国語、数学、面接 調査書	外国語、数学、面接 調査書	外国語、国語、数学、 理科 (2 科目)	外国語、数学、理科 (2 科目)、小論文	面接、調査書
募集人員	20 人	10 人	10 人	70 人	
合格発表	平成 25 年 12 月 3 日(火)	平成 25 年 12 月 3 日(火)	一次合格： 平成 26 年 2 月 8 日(土)	平成 26 年 2 月 8 日(土)	平成 26 年 2 月 22 日(土)
福大医学部医学科を受験されるお子様のお名前をお教え下さい。 烏帽子会では毎年、福大医学部を受験される同窓生のお子様のお名前をお尋ねしております。大学によっては同窓生子女の合格者数が入学定員の半数に迫る大学もあるようですが、本学ではまだ 10 数名、入学定員の 10% 台に過ぎません。つきましては、色々の参考にしたいと考えていますので、お差し支えなければ受験されるお子様のお名前を下記あてお知らせ下さい。 TEL：092-865-6353 FAX：092-865-9484 E-mail：eboshi@minf.med.fukuoka-u.ac.jp 〒 814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1 福岡大学医学部同窓会					追加合格 平成 26 年 2 月 22 日(土)の二次合格発表と同時に、追加合格予定者に追加合格予定順位が通知されます。その中から 3 月 31 日までに追加合格者を決定し、本人に通知されます。

教授退任挨拶

退任の挨拶

古賀病院 21 泌尿器科顧問 平 塚 義 治 (福岡大学筑紫病院 泌尿器科教授・特別会員)



この度、医学部同窓会より退任の挨拶の原稿依頼を受け、筆を取りました。私は、昭和 48 年 3 月に長崎大学を卒業して、福岡大学病院の第 1 回の研修医として福大病院に就職して医師としての第一歩が始まりました。

その後、田川市立病院・飯塚病院勤務、米国 UCLA 留学で福大を離れましたが、それを含め合計 39 年 10 ヶ月の長きにわたり福大にお世話になり、私の医師としての成長は福大のお陰と深く感謝しています。

福大医学部の 1 ～ 2 回生の人はご存じだと思いますが、私が昭和 48 年 6 月 1 日に研修医として採用された当時、現在の福大病院本館は工事中で、採用された研修医は国立福岡中央病院(現九州医療センター)預かりでの研修スタートでした。8 月 1 日から福大病院が開院しましたが、通勤は大変不便で、私ははじめ車を持っていなかったため、バス通勤でしたが、福大病院行きバスはなく、七隈四つ角が一番近いバス停で、そこから歩いての通勤でした。その当時七隈は田舎で、最終バスも 19 時にはなくなるため、病院を早く退散しなければならず、一番仕事をしないといけない下っ端が一番楽をするという状況でした。これはまずいと思い、車を探し、やっと中古のコロナ(あまりぼろなので、皆からボロナと言われていました)を手に入れ、原三信病院の前のアパートからの通勤をはじめました。しかし整備された駐車場はなく(現在駐車場が病院裏にあります)、当時そこは田んぼで梅雨時期はカエルの鳴き声の大合唱でした)現在医学部の前の立派な庭になっているところに駐車しましたが、舗装されてなく、雨が降ると車がどろんこになっていました(私はボロナでしたのであまり気になりませんでした)。

福大医学部の建物に目をやると、当然新築ですが、今では考えられませんが各部屋にクーラーはなく、夏は窓を開けないと暑く、開けると虫の大群が来襲する状況でした。そこで自分たちで網戸を作っていると、泌尿器科医局の奥が脳外科の医局でしたので、朝永教授(現名誉教授)がにこにこしながら何をやっていますかと入って来られるなど、病院全体が家

族的雰囲気や、また職員皆が福大医学部・病院を立派に育てようという意気込みに溢れ、大変だったのですが(大変・きついとは思いませんでした)楽しく仕事をさせてもらった時代でした。

またその当時、携帯電話などなく固定電話でしたので、患者さんの急変は自宅に電話がかかってきましたが、独身だった私は固定電話を持たず、当時香椎に住んであった、有吉助教授(現名誉教授)が、夜中の 2 時ごろ私の患者のために病院まで来られたこともありました。これもまずいと思い、ポケベル(ポケベル)を持たせてもらいましたが、今度はポケベルになると、このポケベルは音が鳴るだけで通話できませんので、冬など自分のアパートからパジャマの上にオーバーを羽織り、ちょっと離れた街角の公衆電話まで 10 円玉を握りしめて行き、連絡の内容が大したことないと、腹が立つやら、がっかりするやらでしたがこれも楽しい思い出となっています。

このような状況からスタートした福大病院も、40 年が経過し、皆様同窓生らの努力で素晴らしい医学部・病院に発展して来ました。退任にあたって思うことは、この素晴らしい福大を皆様の力でさらに発展させ、医療の進歩をリードしながら、患者さんにやさしい医療を継続していただきたいことです。それには、坂本教授(現名誉教授)から教わったことですが、教育の大切さです。教育は自分の時間を使って、後輩・学生を教えるわけですが、すぐに結果を求めず、やる気を起こさせる教育をお願いしたいと思います。これを行うことで福大は人も集まり、さらなる発展があると信じます。

私は現在久留米市にある古賀病院 21、泌尿器科に勤務しています。部長には福大卒の北城先生、さらに福大卒の富田先生もおられ、両同窓生の助けを借りながら診療ですが、なんとか地域医療のレベルアップがはかれるように福大で学んだことを実践する毎日です。

退任にあたり、立派な言葉も贈れませんが、自らの時間を費やして、やる気を起こさせる教育で福大を発展させていただきたいお願いと、開院時の思い出を語ることで、退任の挨拶とさせていただきますと思います。長い間支えていただき有り難うございました。

総会報告

第 32 回烏帽子会総会報告

第 32 回烏帽子会総会を盛り上げる会 武 田 卓（16 回生 武田病院院長）

去る平成 25 年 7 月 6 日、ソラリア西鉄ホテルにおいて、第 32 回烏帽子会総会、講演会、および懇親会を開催しました。今年は記録的な猛暑で雨の少ない夏でしたが、会の当日は今にも雨が降りそうな曇り空でした。そんな天候にもかかわらず特別会員の先生をはじめ、多くの先生方にご参加を頂きました。

総会では、多くの議題や報告事項がありましたが、参加頂きました皆様のご協力のお陰で滞りなく終了することができました。

ゲストの志茂田景樹さんの講演会では、16 回生の林和恵の座長のもと、「愛のあるコミュニケーション」と題してお話を頂きました。志茂田さんの話題は、服装と同様にとてもバラエティで、有名な twitter と同様、含蓄に富んだ内容でした。

引き続き、会場を変えて行われた懇親会にも多くの先生方にご参加を頂きました。毎年、烏帽子会総会ではプロの司会をお願いすることがルールでしたが、理事会の承認を得た上で、16 回生の喜多村泰輔が総会から懇親会を通して司会を担当し、セミプロ並みの術で進行いたしました。

懇親会では、高木会長、久保医学部長のご挨拶の後、研究奨励賞の表彰を行いました。竹下選考委員長による選考の経緯についての説明があり、5 名の先生に賞が授与されました。また、西医体などで優秀な成績を残した学生の団体・個人に対し贈られる烏帽子会賞の授与を行いました。今年は例年以上に表彰される学生さんが多く、学生参加者も増え、同窓会を運営する立場としてありがたい結果でした。懇親

の時間をできるだけ長めにするよう計画した都合上、時間配分に苦勞し、予想した以上に間延びした感がありましたが、福岡在住のクラリネット奏者、原口晃二さんによる素晴らしいソロ演奏で盛り上げて頂きました。講演された志茂田景樹さんもこの演奏の時間まで懇親会と一緒に過ごして頂きました。

最期に、次回担当学年である 17 回生への引き継ぎを行い、恒例となった参加者全員で輪となる校歌斉唱が行われました。そして、6 回生の田野先生の音頭で万歳三唱を行い、無事閉会することができました。

同じ 6 つながり会をサポートして下さった 26 回生の先生方に感謝致します。特に、遠方にもかかわらず、多大なるサポートをして下さった正木稔子先生に深く御礼申し上げます。

われわれ 16 回生は懇親会に引き続いて二次会にも多くの同窓が集まり、楽しい時間を過ごすことができました。年相応の、そして苦勞した顔、あるいはほとんど学生時代と変わらない顔、たくさんの顔に会えました。「第 32 回烏帽子会総会を盛り上げる会」を担当した私としては準備不足で何かと足りない点があったかとは思いますが、皆で集まってくれたのが何よりでした。

ご支援を頂きました多くの方にこの場を借りてお礼を述べさせていただきます。同窓会理事会および事務局の皆様のご助言の賜と思っております。本当にありがとうございました。来年もより多くの同窓が集まる会となりますようお祈り申し上げます。



盛り上げる会代表 武田卓先生



総合司会 喜多村泰輔先生



講演 志茂田景樹氏



座長 林和恵先生



ゲストの宮本・久保・金岡・田中特別会員の先生方



クラリネット奏者 原口晃二氏



17 回生へ幹事引継ぎ



万歳三唱 6 回生 田野茂樹先生



幹事の先生方

研究奨励賞

平成 25 年度同窓会研究奨励賞選考報告

選考委員長 竹 下 盛 重 (3 回生)

第 16 回同窓会研究奨励賞選考委員会を平成 25 年 5 月下旬に市内で開催しました。選考委員は、同窓会長、副会長が見守る中、福岡大学医学部・病院、筑紫病院の卒業生の教授で行います。表彰は烏帽子会総会で行ってあります。本年はすこし少なく 6 名の応募があり、全員提出論文による審査となりました。厳選の末、5 名に対し優秀賞を授与することを決めました。この中でも、研究内容等を加味し授

賞内容を変えております。年々、IF が高い雑誌に掲載された良い内容の仕事が多くなってきております。公募に際しては、基本的に筆頭著者であることが条件となります。論文を自身で苦勞して構築した方が対象となります。本受賞資格は、40 才未満、正、準会員です。良い仕事ができたとされる方は是非応募して頂きたいと思います。

福岡大学医学部 心臓血管外科 福大大学院生 桑 原 豪 (正会員 /27 回生)	マウス虚血肢モデルにおける CD11b 陽性細胞由来 VEGF-C の虚血改善効果
福岡大学病院 呼吸器内科 福大講師 原 田 泰 志 (準会員)	通常型間質性肺炎および非特異性間質性肺炎における線維芽細胞増生巣 (fibroblastic foci) と予後に関する検討
福岡大学医学部 心臓血管内科学 福大助手 福 島 幹 生 (正会員 /24 回生)	冠動脈疾患の有無から見た透析患者の脂質代謝の特徴
福岡大学病院 救命救急センター 福大助手 町 田 稔 (正会員 /25 回生)	Effect of intravenous adrenaline before arrival at the hospital in out-of-hospital cardiac arrest
福岡大学医学部 循環器内科 福大助教 森 井 誠 士 (正会員 /26 回生)	Comparison of the efficacy and safety of irbesartan and olmesartan in Patients with hypertension(EARTH study)



平成 25 年度授賞論文抄録

マウス虚血肢モデルにおける CD11 b 陽性細胞由来 VEGF-C の虚血改善効果 (論文)

福岡大学医学部 心臓血管外科福大大学院生 桑 原 豪 (27 回生)



近年、血管再生治療 (Therapeutic angiogenesis) が重症下肢虚血における重要な治療戦略として注目されている。その中で骨髄細胞移植による血管再生治療の有効性が多い臨床試験で示されている。

我々は骨髄細胞由来の CD11b 陽性細胞および VEGF-C に着目し、その血管新生効果についてマウス虚血肢モデルを用いて評価検討した。CD11b+ 細胞投与群・recombinant VEGF-C 投与群で control 群に比べて有意にレーザードップラーによる血流改善を認め、さらに CatWalk system を用いた虚血肢の機能分析では recombinant VEGF-C 投与群で有意に機能が改善した。組織学的には von Willebrand factor 抗体による免疫染色

で Capillary density の評価を行い、VEGF-C 投与群での血管新生増強を確認した。また VEGF, VEGF-C, さらにそれらの受容体である VEGFR1, VEGFR2 および VEGFR3 の mRNA および蛋白レベルでの分子生物学的解析を行った。骨髄由来 CD11b 陽性細胞および VEGF-C はマウス虚血肢において、血管新生およびリンパ管新生を増強し、血流・機能改善を促進した。さらに CD11b 陽性細胞を用いた細胞治療では、定型通りの骨髄細胞治療に比べ投与細胞数を減少させ、治療早期からの改善効果を認めた。CD11b 陽性細胞とそのパラクライン効果として改善に寄与した VEGF-C の投与を含む治療は、度重なる骨髄採取などの侵襲的治療を軽減し、閉塞性動脈硬化症患者に対する血管再生治療の一つのオプションとなり得るものと考ええる。

通常型間質性肺炎および非特異性間質性肺炎における線維芽細胞増生巣 (fibroblastic foci) と予後に関する検討 (論文)

福岡大学病院 呼吸器内科 福大講師 原 田 泰 志 (準会員)



【背景】Fibroblastic foci (FF) は (筋) 線維芽細胞の増殖からなり、通常型間質性肺炎 (usual interstitial pneumonia; UIP) の組織学的特徴とされてきた。しかし UIP と線維化型非特異性間質性肺炎 (fibrotic NSIP; fNSIP) の鑑別は困難な

ことも多く、FF が UIP と fNSIP に共通する形態的な重症度の指標であると考え、間質性肺炎の重症度を示す肺機能との関連を検討する。

【方法】1995 年から 2008 年の間に外科的生検で組織学的に UIP あるいは fNSIP パターンを示した 50 例を対象とした。標本全体に占める FF の面積

(%FF)、およびその個数 (FF/cm²) をそれぞれの症例で算出し、UIP と fNSIP の比較、および肺機能との関連性を検討した。

【結果】%FF、FF/cm²ともに、UIP 群では NSIP 群に比較し有意に高い数値を示していた。死亡した群では生存群よりも有意に高い FF を呈していた。また UIP と fNSIP 群を一緒にして検討すると、VC および DLco は %FF、FF/cm² のいずれとも緩やかな逆相関を示した。

【結論】間質性肺炎において FF がガス交換障害と関連していると考えられ、肺機能や予後を予測する上で、従来から存在する間質性肺炎の病理学的分類を越えて FF を病理学的に評価することは重要である。

冠動脈疾患の有無から見た透析患者の脂質代謝の特徴 (論文)

福岡大学医学部 心臓血管内科学 福大助手 福 島 幹 生 (24 回生)



目的：透析患者においてコレステロール合成能や吸収能が冠動脈疾患の危険因子となりうるかについて、他の危険因子とともに検討した。

方法：98 名の透析患者を HD グループとし、心血管系の危険因子を一つ以上有する患者のうち、年齢・性別・BMI をマッチさせた 58 名の患者を非 HD 群として登録した。脂質プロフィールやコレステロール合成・吸収能のバイオマーカーの分析を行った。

結果：HD 群において TC、中性脂肪、HDL-C、LDL-C、non-HDL や L/H 比は、非 HD 群に比べ有意に低下していた。

コレステロール吸収能の指標であるカンペステロール /TC、シトステロール /TC とコレスタロール /TC は、全て非 HD 群より HD 群において高値であった。また、HD 群で冠動脈疾患を有する患者は、ラソステロール /TC が有意に高く、ラソステロール /カンペステロール比は低下していた。冠動脈疾患の危険因子については HD 群では冠動脈疾患の有無は、BMI が独立した予測因子であった。

考察：透析患者では、非透析患者に比し、低いコレステロール値と高いコレステロールの吸収能が認められた。加えて、透析群では、冠動脈疾患が BMI と関連していた。透析患者において LDL-C が低値であったとしてもコレステロールの吸収を阻害することは冠動脈疾患のリスクを抑える上で重要である事が示唆された。

Effect of intravenous adrenaline before arrival at the hospital in out-of-hospital cardiac arrest (論文)

福岡大学病院 救命救急センター 福大助手 町 田 稔 (25 回生)



【目的】心停止に対してアドレナリン(AD)を含む薬物投与による治療が種々のガイドラインで推奨されている。AD 投与の是非については一定の見解を得られていないが、2006 年 4 月より本邦でも救急救命士による病院到着前の AD の静脈内投与が可能となった。

そこで今回、当センターでの症例をまとめ、病院外心停止症例に対しての病院到着前の AD 投与が臨床的転帰に及ぼす影響について検討した。

【方法と結果】対象は 2006 年 4 月からの 5 年間に、病院外で心停止となり、救急隊により当センターに直接搬送された 492 症例(18 歳未満は除外)。病院到

着前に AD を投与された 49 例と投与されなかった 443 例の 2 群に分け、自己心拍再開、生存入院、生存退院、退院時の良好な神経学的回復の 4 項目をエンドポイントとして検討を行ったが、いずれにも有意な差は認めなかった。外因性の心停止を除外した検討(333 例)や、電氣的除細動が可能な波形(心室細動・頻拍)に限定した検討(75 例)でも、やはり有意差は認めなかった。

【結論】病院外心停止症例に対する病院到着前の AD 静脈内投与は、臨床的転帰を改善させなかった。しかし今回の研究は後ろ向き試験であることや単施設研究であること等の制限があるため、AD 投与の有用性については今後も検討が必要だと考えられた。

Comparison of the efficacy and safety of irbesartan and olmesartan in Patients with hypertension(EARTH study) (論文)

福岡大学医学部 循環器内科 福大助教 森 井 誠 士 (26 回生)



Since not all angiotensin II type 1 receptor blockers (ARBs) have the same effects, we compared the efficacy and safety of irbesartan to those of olmesartan in patients with hypertension. The patients were randomly divided into irbesartan (n=28) and olmesartan (n=28) groups. Systolic and diastolic blood pressure (SBP and DBP) were significantly decreased in all patients. In particular, SBP and DBP in patients who initially received irbesartan showed significant reductions after 4 and 8 weeks, respectively. Moreover, although there was no difference in the equality of variance of SBP or DBP between the groups

at 0 weeks by Bartlett's test, the equality of variance in the irbesartan group was significantly smaller than that in the olmesartan group at 12 weeks. Blood concentrations of monocyte chemoattractant protein-1 and pentraxin (PTX)-3 were significantly decreased and cystatin-C was significantly increased after 12 weeks in all patients. In particular, patients who received 100-200 mg/day of irbesartan showed a significant reduction of PTX-3. In conclusion, the ability of irbesartan to reduce BP is at least comparable to that of olmesartan. Since irbesartan showed a lower variance of BP, it may be more effective than olmesartan for most patients. Irbesartan might have an anti-inflammatory effect as a molecular (or differential) effect.

平成 26 年度 福岡大学医学部同窓会 研究奨励賞募集要項

対 象：正会員及び準会員で、40 才未満の者または学部卒業後 10 年未満の者
(本会会費完納を条件とする)

研 究 課 題：医学に関するものであれば自由 (医学に関する研究計画又は研究論文)

申 請 方 法：所定の申請書による (所定欄に支部長推薦を要す)

提 出 先：〒 814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局
TEL 092-865-6353 (直通) 代表 092-801-1011 内線 3032 Fax 092-865-9484

締 切：平成 26 年 4 月 30 日 (水)

賞状・賞金：奨励賞 (優秀論文賞を含む) 5 件以内

発表及び表彰：平成 26 年 7 月 5 日 (土)、第 33 回同窓会総会席上 必ず出席すること

そ の 他：①論文受賞者は抄録を提出すること

計画受賞者は 1 年後研究成果報告書を提出すること

②申請書は同窓会事務局に請求又は同窓会ホームページからダウンロードのこと

③申請書はワープロで記載し、過去の研究業績 (原著、著書、症例報告、学会発表)、研究の独創性・重要性を十分に書くこと

※準会員の方もご応募ください。

平成 24 年度評議員会議事録

- ◆日時 平成 25 年 4 月 27 日 16 時
◆場所 福岡国際ホール
◆出席 評議員：実出席 50、委任出席 39、欠席 19
支部長（再掲）：出席 12、欠席 8

亡くなった先生方を悼み黙祷。

◇経過報告

〈高木会長〉

皆さんこんにちは。毎年報告しています国家試験のことですが、今年は昨年の最下位にはならなかったもののワースト 5 に入っています。国家試験の合格率は 90% 台が普通になっており、全国 80 校の内 66 校、全体の 8 割が 90% 以上の成績です。福岡大学は今のところ低迷を続けており大変危惧しております。子弟の入試状況ですが、今年は A 方式推薦が 4 人、地域枠推薦 3 人、一般入試が 7 人で合計 14 人という結果でした。入試だけが相変わらず超難関の状態が続いているようですがそれが国家試験に結びつかないことは残念なことだと思っています。研究奨励賞は年々内容が充実しており選考委員会が苦勞するようになってきました。在外研究援助金も応募が増えております。烏帽子会賞は、九山や、西医体での授与が多いようです。もっと全医体のレベルになると、クラブ活動と国家試験成績は平行すると言われていきますので期待したいと思っています。

毎年福大の状況を皆さんに報告しておりますが、少し気持ちに緩みが出てきて流されているように感じます。支部長さんをお願いがあるのですが、支部総会や活動に学生さんをお呼びいただき、学生の中からいろいろな刺激を与えていただきたい、そういう気持ちをもって接していただきたいと思っています。同窓会活動は自分の為だけに行くものではなく、自分以外の他人がプラスになるように自分が動くという気持ちを持つことが、同窓会活動の大事なコンテンツだと思います。よろしくお願いいたします。

〈重田副会長〉

入試の状況につきまして朔教授がみえてますので、大学の方向なり学内の先生のお考えをお話いただきたいと思います。

〈朔副会長〉

入試は教授会でも大きな話題になります。現在の定員は 110 人です。多くの国立大学では 130 人の定員になってき

ましたので全体的に私学は入りやすくなってる訳です。そうすると福岡大学に入学する人たちのレベルがだんだんと下がってくる現状があります。A 推薦と地域枠推薦で 35 人の定員ですが、その 8 割は女子学生です。来年度から推薦の数を見直す、センター試験利用など取組中です。今、一般の学部卒業の就職率が 70% に対し、医師のニーズは高く景気の影響を受けないことから医学部は大人気です。倍率が 20 ～ 30 倍でも受験料 6 万円でも受験者数は増加しています。面接点が大きく響くのが現役、一浪。そして推薦入試は圧倒的に面接点がかからなくなります。実際面接すると女子は上手いです。良い点をつけてしまう傾向があり、それが影響しているのかどうか解りませんが、推薦において女子の割合が高くなっています。例年福大医学部では 35・40% が女性ですが今年は 50% が女性です。女性が多いと、入局に影響を及ぼす可能性がよく指摘されます。合格者のトップ 5 人位の学費を 2000 万円台にすると優秀な学生が入ってくるのではとの意見もあります。

〈重田副会長〉

ありがとうございました。入試に関してはどこの支部に行ってもかなり、いろいろな要望が出ます。朔先生が折角来られてますので希望なり何かありませんか？間違いなく現役と推薦が入りやすい様です。推薦の評定値が 4.2 から 3.7 になりましたので随分受けやすくなっています。子弟の方で何とか福大に入りたいという方は推薦を受けるように話して下さい。

〈朔副会長〉

第 1 希望が福大の場合はそうですが、受験生に言わせると、必ずしも第 1 希望が福大ではない人にとっては、推薦入試は時期的なこともあり受けづらい要因があるようです。

議題 1. 平成 24 年度収入支出決算見込

〈事務局説明〉

[附]会費納入状況

〈田中専務理事説明〉

日頃よりお忙しい中支部徴収にご協力いただきまして本当にありがとうございます。皆様の大変なご努力をいただいておりますことに御礼申し上げます。支部徴収は 1 月末が締め切りになっておりますので 24 年度単独では 95% で確定しております。各々の支部で 100% 超えておりますのは過年度分の支払いが派生したためによるものです。24 年度までの累積では全体で 81%、昨年が 84% ですので引き続き 80% を超える非常に高い支部徴収率を維持できておりま

す。皆様のご努力の賜だと思っております。本部徴収に関しましては5月末が締めでございますが現在が55.4%、昨年度が63.6%、22年度が67.2%ということでしたので例年通り60%を超えていると考えております。やや本部徴収の方が悪いようです、この辺も引き続き皆様にご指導ご鞭撻ご協力をお願いしたいと思っております。

拍手をもって承認

◇議題 2. 平成 24 年度事業報告及び

平成 25 年度事業計画（案）について

①会報の発行〈笠理事説明〉

郵送します封筒をアピールを強くするため半透明にしました。それで予算が高くなっていることと、学生の保護者へもお送りしておりますので、発行部数が増えております。保護者の精読率が高く会報へのレスポンスが多いと聞いております。

②総会の開催〈笠理事説明〉

現在総会において学生さんの会費補助をしておりますが、九山や西医体での活躍等もあり学生さんの招待数が増えておりますので、10万円上乘せさせていただいております。

③支部活動援助〈笠理事説明〉

支部活動援助の講師招聘援助費は支部会の時に、福大の先生が支部へ行かれて講演される時の交通費の援助とご理解いただければと思います。本年度は佐世保支部、筑後支部、朝倉支部へ援助いたしております。

④研究奨励賞〈竹下選考委員長〉

5名の方に授与いたしました。この中には科研費を貰われた先生も居られます。トップジャーナルに載るような方に関しては本来授与は1回ですが、チャンスを与えてよいのではないかという話も出ました。

〈朔副会長〉

賞は実際あまり貰えないですね。若手の「研究奨励賞」にしたのは10年程前ですが、いろいろな研究費を申請する時に賞を貰ったということが記載できます。そうすると評価が高くなりますね。

⑤在外研究援助金〈林副会長説明〉

福岡大学の同窓の先生（準会員も同様）で海外へ長期（3カ月以上）に留学される時、所属機関責任者の推薦状、受け入れ先の同意と証明書を添えて提出いただきます。理事会にて決定した場合20万円を給付しております。2月末では1名です。学生1件10万というのは、4年生または5年生の学生より希望があれば夏期休暇や春期休暇を利用して2週間ほど研修に行っていたら1件

10万円で5人までとしておりましたが、3月に2名短期留学に行きました。在外研究援助金を受けて留学された先生、学生は帰国後会報に報告が掲載されます。

⑥学生対策〈朔副会長説明〉

学生対策は新入生歓迎会、M4 激励会、国試激励会、M7 激励会を行っています。今年から国試激励会という言葉はやめて M6 激励会としようではないかとなりました。何も国家試験だけをサポートする訳ではなく、医師として何が重要かの教育を援助するというのも大切なことです。国家試験の合格率ですが一気には良くはならないですね。どうしても100人位の卒業生を目指すという前提があります。本来ならば90人程しか卒業できないのではないかと誰しも思うのですが、ですから徐々にしか良くなれないと思っています。

今年、埼玉医科大学が新卒で100%となっています。福大に教育計画部ができてきた時に見学に来ていた学校です。今や埼玉はトップになって福大が伸び悩んでいますね。学部には20人程で構成されている教務委員会があります。教務委員会で成績をどこで落とすか決める時は80%程の方がラインを上の方に設定することに賛成してくれませんが、教授会では成績が良くないと卒業させないという雰囲気にもならないです。100人いたら下位30人が問題です。下位30人をどうやってケアするか45年の問題でした。

今の国試では一般問題、臨床問題、必修問題がありそれぞれにおいて点数を取らない限り落ちます。合計点が良くて必修で8割なければ落ちます。国家試験も3日間あり2日間弁当配りに行きましたが、ギリギリした雰囲気の中で試験を受けていました。勝ち抜くことが如何に重要か毎回痛感します。だから適当に卒業させることは問題です。今年現役で落ちた人が14人います。14人の内4年生の時にサボった平均授業数が97です。今は土日が休みですから、年間97時間を休むことは週に2日位しか出てきてないです。そういう人はやはり落ちています。

〈重田副会長〉

いつも言うことですが、国家試験の成績について胸が痛むのは同窓の人間と保護者だけです。他の大学は競争相手です。国試の成績についての批評は同窓会の大きな仕事であろうと思っています。学内の先生方のご苦労があることは十分理解していますが、頑張してほしいと思っています。

⑦白衣贈与〈林副会長説明〉

5年生のBSL開始前に行っています。ポケットに刺繍をいれネームの入った白衣です。殆どの学生がその白衣を

着ており評判がいいようです。5年生への進級時に増減がありますが、100人で予算組をしています。

⑧国試対策費〈林副会長説明〉

国家試験の低迷に伴い学内でもカリキュラムや進級判定が大きく変動しております。それに伴い私たちの計画も急激な変化を余儀なくされております。以前から夏期セミナーを短期集中でしていましたが、出席しない、突然休むなど難しい状況が続いたこと、学部がこの時期に勉強会を実施することなど考え今年から取りやめることになっております。この分の予算をどのように生かしていくか検討中です。昨年が最下位、今年も様々な手を尽くしましたが、下から4番目。その前の成績を見ましても今の状態は下方のグループに定着してしまうことになり学部としては致命的なことになります。学部もここに全力をあげているところですが、私たちも今までやってきましたように、学部と共にできることはやるべきではないかと考えております。細かい計画を立てていないのに予算を組むことに忸怩たる思いがあるのですが、ご容赦いただき、夏期または冬期に集中的に少しでも合格者を増やす努力をさせていただくように、予算を組ませていただきたいと異例ですがお願いする次第でございます。

〈重田副会長〉

今年卒業した学生が6年生になってすぐの4月に、東京女子医大産婦人科准教授をしている8回生の牧野先生に国試激励会で講演会をしてもらいました。東京女子医大で実際にやっている勉強法について説明をしてもらいました。それをやって下位の成績からどんどん上位に上がっていった学生がいました。学内の先生方も必死でやられていると思いますが、外から協力できるメンバーもおりますので同窓会もバックアップして我々でできることであればやっていきたいと思っております。

⑨支部祝儀贈与（笠理事説明）

支部会をされた時に本部の役員を呼んでいただき、出席の際に本部よりお持ちするものです。実績として福岡支部、佐賀支部、宮崎支部へお渡ししております。

⑩学生行事援助（笠理事説明）

烏帽子会賞は西医体、九山において優秀な成績を納めた団体、個人に渡しております。学生行事援助は交換留学の啓明大学学生への白衣支援をしています。学生行事参加は謝恩会へ招待される際の祝儀です。

⑪学会寄付（笠理事説明）

本年度は第69回日本循環器心身医学会、第329回九州沖縄地区病理カンファレンスへ寄付をいたしました。

⑫慶弔贈与（笠理事説明）

6回生の野田慶太先生への教授就任お祝い、5回生今泉忍先生、20回生浜田一志先生へ弔慰金を出しております。

⑬グッズ作製 ⑭会員名簿 ⑮パニックマニュアルの発行

24年度は作製せず

⑯奨学金緊急貸与

24年度は支給対象者なし

⑰縁結び（田野理事）後で説明

⑱保険コンサルティング紹介（武末理事）

以前生命保険の代理店契約を結び、同窓会を通して先生方に紹介をし、その手数料が収入として計上されておりました。しかし法律の改正などに伴い代理店契約を解除しておりました。その当時契約をしていた先生方には保険会社の担当者が伺いフォローをしていただいていた。この度そういうご縁で以前関わっていた保険会社の方から話がありました。形を整えると同窓会経由で紹介ができること、1社の保険に限定することなく多数の保険会社の中から適した保険を紹介することができることから事業として始めることにしました。また、保険と言っても医者向けの保険があること、生命保険に関わらず自動車保険や火災保険、訴訟があった場合の問題など医者では解決できない問題も多々あるということでそういう問題解決の一助になればということで皆さんに紹介を始めました。

全員にご案内を差し上げていないのは、お問い合わせをいただいたら具体的なお話をしに伺うことになります。担当人数が少ないこと、どのような反応をいただけるのか試しという意味も含めて福岡、北九州、七隈・筑紫病院の先生方に案内を出させていただいた次第です。

学生向けも始めまして、国家試験に合格した卒業生、現6年生、新入生に案内をいたしました。学生でも実習が始まりますとリスクも出てきますし、心身ともに病気になることもあります。そういう保険も必要だろうということで案内をいたしました。

結果として学生さんからは30件程のお問い合わせをいただいております。卒業生では二名程契約ができています。

それぞれの先生方に合ったプランを紹介していただくことも勿論メリットですが、副産物的に、手数料収入が同窓会に入るという資金的な援助にもなり得ることから保険コンサルティングの紹介を始めております。

〈重田副会長〉

12月に始めましたが思ったより反響がよいです。特に1年生6年生の保険に関しましては僕自身いいなと思いました。福岡、北九州の先生方如何でしょうか？

〈小金丸評議員〉

僕が同窓会理事の時から知り合いが担当メンバーにいます。かなり詳しいです。なんじゃかんじゃと保険に入っていたものを全部見直してもらい1本化してもらって助かりました。非常に詳しく今後のお金のプランなど積極的に相談してくれるのでどうぞご利用下さい。

〈重田副会長〉

人物的にも問題ないですね。今まで義理人情で保険に入ってましたが、全部の保険を扱いながら自分に合った保険を紹介してくれるようです。将来的には福岡県内まで広げられるのでしょうか？

〈武末理事〉

保険に関してはおそらく九州一円可能だと思います。詳しくは話しませんでした。この中に弁護士事務所への登録というものがあります。何かあった時に相談できるように事前に登録しておくというシステムですがこれに関しては広島まで可能ということです。

〈重田副会長〉

以上事業計画案について説明いたしました。何かご質問はございませんでしょうか？

ないようでしたらご承認お願いいたします

拍手をもって承認

◇議題 3. 平成 25 年度収入支出予算（案）

事務局説明

承認

◇議題 4. 決算評議員会省略の件

承認

福岡大学筑紫病院開院について現況報告

〈前川専務理事〉

福岡大学筑紫病院の新築までの経緯と現況をご説明いたします。福岡大学筑紫病院は、昭和 60 年に筑紫野市俗明院の地に旧小野病院を改修して開院しました。俗明院とは、大宰府政庁の保養院があった所の地名で、続命院という保養院の名前からとってあるそうです。当初は消化器病の専門病院として発展してきましたが、救急を標榜するようになってから、平成 19 年 4 月に全国の大学病院としては初めて地域医療支援病院に認定されて今に至っています。個人病院の買い取りでしたので建築後 30 年以上経って老朽化と狭隘化（建築用語で狭くて汚いの意味）が進んでおり毎年の維持管理費、補修工事費が億単位にまでなっていました。診療報酬の改定が数年に一度行われますが、専門スタッフはちゃんといえるのですが、施設基

準がそれを満たさないために基準の一番低い低基準値の診療報酬しか算定できないということで病院経営としては大変窮屈になってきた訳です。

新病院の構想は平成 11 年に福岡大学筑紫病院将来構想委員会を設置し、診療科の再編を考える、救急医療を整備し取り組むとことを盛り込んだ回答書を福岡大学本部に提出しております。翌年の平成 12 年の 2 月、当時八尾恒良病院長の時に将来構想特別委員会を設置し、平成 18 年田中彰病院長の時に、コンサルト会社が調査をして福岡大学総合医療センター筑紫病院基本構想基本計画書を作っています。環境が良くないということで、この年に隣にあったパチンコ店の用地を買収して筑紫病院の新構想ということになったそうです。翌年の平成 19 年 12 月岩下明徳病院長の時に、前年より福岡大学病院、福岡大学筑紫病院、福岡大学本部とのメディカルゾーン懇談会ができ、その時に話が出まして当時の衛藤学長、藤原副学長、馬本副学長、瓦林副学長、他の学部長、事務局長の病院視察が行われました。筑紫病院の現状に驚かれ、病院の建築のための実行委員会に発展させようということになり平成 20 年 6 月に新病院建築実行委員会が開かれております。翌年の平成 21 年 8 月 11 日に大学協議会を通過して福岡大学筑紫病院新病院建築計画が承認されました。ここまで実に 10 年以上経過しました。平成 21 年 10 月に医療施設耐震化臨時特例交付金計画に福岡大学は申し込みました。交付金が 100 億とも 10 億とも言われたのですが補助を出すという通知が届き見たら 3 億円だったんです。でも福大はこれを喜びました。ただ、これには付記がついてまして、平成 23 年 3 月末日までに工事に着工しなければご破算にするというものでした。これを受理するためにも絶対建てるんだとの後押しになりました。平成 22 年 5 月 20 日の学部長会議で承認され、6 月 17 日大学協議会でも承認されました。そして平成 23 年 3 月 16 日に筑紫病院隣の旧パチンコ店跡地で地鎮祭が行われました。

我々が新病院としてお願いしたのは、福岡大学病院との役割分担を明確にし臨床に質の高い臨床医療を貢献するということにしましたが、あくまでも大学病院としての機能を念頭においた医学・看護学・薬学・スポーツ科学の学生教育・実習、臨床研修医の基礎教育、地域の医療従事者の教育・研修をとおして優秀な医療人を育成するという、いわゆる福岡大学筑紫野キャンパスとしての機能を有するような病院にしたいとお願いしました。

新病院にするためにベッド数 308 床（厚労省よりの通達で新病院建築には一割のベット数削減が必須要件）にして造っております。この中に念願でありました ICU の新設と

SCU の増設、HCU の充実をしております。癌化学療法室、リハビリテーションセンターの新設もしています。MRI、CT の増設と充実を図っておりますし、血管造影室は手術室の隣に増設し造影後直ちに手術室で手術ができるように緊急対応型に変更いたしました。また念願でありました小児病棟を新設いたしまして、地域の小児救急医療支援事業の拠点病院となるようになりました。それから大学病院としての機能を果たせるようにカンファレンス室、小会議室、看護師の控え室、学生控え室を入れて臨床研究ができるように大きな会議室も造っていただきました。平成 25 年 2 月 28 日に福岡大学長をお迎えして新福岡大学筑紫病院の竣工式をしていただきました。くしくも地鎮祭と同じ日である平成 25 年 3 月 16 日に福岡大学長、筑紫野市長、医学部長、同窓会会長、医師会長や地域の先生方をお迎えして新病院の内覧会および祝賀会を盛大に執り行わせていただきました。

5 月 1 日に病棟患者の移動を行い、連休明けの 5 月 7 日に新病院として開院いたします。7 月から旧病院と研究棟の解体に入りまして平成 26 年 6 月に旧研究棟の跡地に自走式の立体駐車場を完成させて 2 階の玄関と渡り廊下で繋がる予定になっています。

これで事業は終わります皆様方には今後ご支援ご指導をいただきたいのですが、病院としましては寄付金のお願いをしております。寄付金のお願いをするに当たりまして当時私は副院長でしたのでお願いのパンフレットには私が作った文書が入っていると思います。福岡大学は恒久的に募金を募集するということになり募金事務所ができております。同窓会の先生方には今後とも筑紫病院を見守りいただき、ご支援いただきますよう切にお願いして終わらせていただきます。よろしくお願いいたします。

〈重田副会長〉

地元の医師会の帆足先生一言お願いします。ご要望その他地元のご意見をお願いします。

〈筑紫支部 帆足先生〉

僕は筑紫病院出身なのでそんなに不便はないのですが、済生会二日市病院に比べると受入が悪いというのでそのところは変えていただきたいと思います。久留米出身の方は非常に使いづらいとよく言われるのでもっと変えていただければいいかなと思います。

◇議題 5. 子弟の結婚問題について

〈田野理事〉

少々お知恵をお借りしたくて別枠にいたしました。昨年より新事業として発足いたしました縁結びでございます。12

月 1 日にサイトを立ち上げまだ日が浅いのですが、皆さんのレスポンスが薄くて現在のところ応募者が女性 4 人しか登録いただけておりません。同窓会の事業として立ち上げたからには、是が非でも成功裏に持っていきたいものですからどうにかして数を増やして行きたい、できれば良縁を結んで第 1 報でも皆さんにお知らせすることができたらいいなと思いましてこの時間をいただきました。何回か理事会で話して問題点が浮き上がってきました。①申し込み方法の敷居が高いのではないかな。申込書に書いて出す作業が大変なのでもっと簡単に記入できないか。②HP で案内をしているがサイトを開いた数は微々たるもので案内不足が原因ではないか。もっとしっかりした広報をしなくては行けないのではないかな。③結婚適齢期が遅くなってご子息ご子女の関心度が低いのではないかな。④サイトを立ち上げただけで僕たち役員が努力してないのではないかな。⑤医師免許を持った男性会員の方に登録していただきたい、参加していただきたいことから男性の枠を広げる、あるいは医師免許を持っていれば同窓生でなくても仲間に入れるなど敷居を低くしてはどうか。⑥我々は専門家ではありませんのでやはり専門家の意見を聞いてはどうかとの意見もあります。専門家の意見を聞くと同時に、こちらの情報が漏れてしまいますので無理な点があるのかもしれませんが、結婚の紹介を生業としている人たちの意見も聞いたらどうかという 6 点に意見が集約されております。ご意見よろしく願います。

〈重田副会長〉

支部長さんに支部の状況の報告も兼ねまして縁結びにつきましてもご意見願います。縁結びの申込書については記入項目が多いため若干の恥ずかしさがあり取付きにくいという意見があります。ただ、見合いごとですので内容自体は仕方がないかなとは思いますが。

一番大事なことは、こういうことは縁ごとですから紹介者が動かないことにはどうしようもないですね。あれを見てご当人たちは書いたりしませんよね。支部長さんたちをお願いしたいのですが、理事会でも強く言いましたが、我々理事が自分の子どもだったり知り合いをまず登録させて数を増やさないとどうしようもないです。先ずは役員が仲介者になっていただき登録していただくことが大事だと思っています。我々が率先してやらないとこの事業は進まないように思いますのでよろしくお願いいたします。

〈筑後支部長 中原先生〉

あまり急がないでよいと思います。この同窓会ができた時と同じで一歩一歩進めて行ってここが良い悪いということをした方がいいと思います。

〈大分県支部長 鬼木先生〉

登録してすぐまとまるものでもないと思います。中原先生も言われましたがゆっくり行かざるを得ないだろうと思います。

〈筑紫支部長 竹野先生〉

ゆっくり時間かけないとこういうのはできないと思います。

〈北九州支部長 坂本先生〉

昔はお世話する方が結構居られましたが今は全くいません。支部長役員が支部会などで話題にすることはできるとしています。ただし縁ですからすぐにまとまるかもしれないし2～3年間かかるかもしれないので長い目で見ていく必要はあると思います。

会計予算を見て講師招聘援助金についてあまり使われてないことが気になりました。北九州支部は、久しぶりに会報へ過去10年の支部総会の歩みとして出しました。僕らが何故利用しているかという若い世代を知らないですよ、どのような先生がおられるか。講師で呼んだ先生方は「来て良かった」と必ず言ってくれますし、日頃支部に出てこない先生も出てきてお互いのモチベーションが上がります。

大学の教授准教授講師が少し元気がないように思い気になりました。上が元気でないと下は集まりません。折角皆集まるのですから大学内が一番元気になって欲しいです。

北九州支部内で総会への女性参加者が一人かゼロだったのが女性有志の会を立ち上げていただいて10人集まりました。女性のパワーはすごいですね。女性10人が男の50人分位のパワーに相当します。女性を会に入れて女性のパワーを利用した方がよいと思います。

〈関西支部長 渡邊先生〉

縁結びは、関西の方では話題になっていないのが現状です。ネーミングに問題があるのではないかと思います。若くて結婚したいと思っている人がそのネーミングで登録してくれるのかなと、抵抗があるのではないかと思います。登録だけでいいですか？合同コンパが行われるとか何かイベントがあるかどうかということも検討の余地があると思います。

関西支部は年に1回の忘年会しかできてないのが現状です。関西は広域になりますので忘年会を12月30日に大阪の梅田ですということになっていますが遠方の方は殆ど来られません。OB参加者は7人位で、現役の学生さんが15人以上来ます。伝統的に学生さんはタダとういことになってますので(大爆笑)OBの出席を良くして改善しないといけないなと思っています。

〈沖縄県支部長 野原先生〉

文化の違いがありますので縁結びは難しいと思います。宣伝不足もあると思います。やるなら気楽にやっていくしかないと思います。敷居を下げて「こういう人がいますよ」位の感覚でないと細かくサイトを作ってもできるのかなと思います。

沖縄は時々有信会と一緒に支部会をやっていましたが、集まりが悪いということで今年から烏帽子会だけでしていきたいと思っています。また少しずつ良くなると思います。今のところ集まる人が少ないです。今関心があるのは国家試験しかないですね、その結果が悪いと集まりも非常に悪くなりますのでもっと頑張ってもらいたいと思います。

息子が産業医大6年生ですが、調べたら国家試験対策で特別にしている訳ではなく、後ろの20名に徹底的に圧力をかけてるだけなんですね。決して集めて勉強させてる訳でもありません。よく聞いたら予備校を利用しているようですが、3回くらいやっているようです。教え方より学生の勉強量の違いだと思います。特別にやっているのではなく真剣度の違いと後ろの20名に圧力をかけてさばれる状態ではないようです。福大でそんなに講義を休んでいるのは問題ですが、産業医大は事務の人から圧力がかかってくるのでその辺りから違うように思います。

保険に関してはメリットが何だろうと思います。資料を貰いましたがあまり良くないなという印象がありました。もう少し何かに特化しないと何の為に入るのかわからないですね。

〈鹿児島支部長 山下先生〉

先日支部会と懇親会をやりましたが縁結びの話は出ませんでした。本部より再三再四アピールをしていただいたらよろしいかと思います。

〈宮崎県支部長 野田先生〉

福大を卒業したばかりの若い人にも縁結びの話をしていただき加わっていただけるといいと思います。私たちは若い人は知りませんので若い人同士の話の方が早く解決すると思います。

皆さん九州医師会医学会というのはご存じでしょうか？県の医師会が主催されますが九州と沖縄を含めて順番に回っているそうです。佐賀支部より連絡がありまして、九州医師会学会に同窓生を集めて年に1回の総会と一緒に開いたらどうかという話があり昨年11月に開催できました。13支部に案内状を出しまして重田副会長と3支部6名の同窓生の先生方に来ていただきました。宮崎からも久しぶりに12名の参加がありました。今年は沖縄で開催されるようになりまして野原先生にお骨折りいただくことになります。佐賀から始まり宮崎、沖縄と持ち回りで行くと思います。案内

がもう少し早めに解っていたらいろいろな手立てがあったかなと思っています。九州医師会医学会が今年沖縄でありますので行かれる先生方どうぞよろしくお願いいたします。

〈重田副会長〉

ちょっとした提案なのですが、同窓会活動の1つのやり方として久留米大学同窓会は常に、九州医師会医学会の時に担当の地区の同窓会が世話をして同窓会をやっているそうです。内もかなり医師会の役員をされている先生方もおられますし、学会だ行き易いですね。そういうことを利用して集まる機会を作ればまた同窓会の活動の1つとして盛り上がるのではないかと思います。今年は沖縄ですのでも野原先生が案内をしていただければ本部からは出て行きますのでチャンスがあればやられてみたらどうかかなと思っています。

〈沖縄県支部長 野原先生〉

できると思います。どの位来るかでいろいろ考えてみたいと思います。ただその時は科によって集まりがあり集中できるかどうかが問題です。私は小児科の部門で集まっており医師会の役員をしていると他の仕事をしないといけないのでフリーの人で集まることはできると思います。では企画したいと思います。

〈熊本支部長 魚返先生〉

先ほど6つの問題点がありその中の男性医師の門戸を広げるについては良いと思います。専門家の意見ですが、インターネットを見るとたくさん婚活サイトがあります。上手くいっているところのメリットを引き込んで展開を広げてみるのもいいかと思います。

〈長崎支部長 星子先生〉

皆さんが仰るようにゆっくり進めていかないとだめではないかと思います。丁度医者になってからは忙しくなって結婚のことを考えなくなる人が多くなります。6年くらいしたら結婚しようかなと思う人もいますと思いますが、それまでは業務的に難しいのではないかと。それだったら学生の内に結婚した方がよいということでもうちょっと早い同窓生たちを入れ込んだらどうでしょうか?例えば学生ですね。

〈佐賀支部長 山津先生〉

縁結びの方ですが、私の所は田舎なのでまだ世話好きのおばちゃんがあります。そのやり方は強引です。そういう人を雇うか(笑)。そういうことをやると非常に成績が上がるのではないかと思います。

九州医師会学会のことですが、佐賀で最初に初めましてその時は会長に来ていただきました。久留米と九大もこれに合わせて夜同窓会をしてあります。分科会があるのは翌日で夜はフリーなので十分に集まることができると思います。

す。少しの時間でもよいので集まると有意義な時間になると思いますのでよろしくお願いいたします。

〈朝倉支部長 古林先生〉

朝倉支部内で子どもが医者になっているのはおそらく一人で、後は大学生になったばかり位だと思います。縁結びはまだまだ先のことと思います。

〈飯塚支部長 二宮先生〉

支部長を長いことさせて貰っていますが、やっとこの頃あそこの息子が医学部に入ったとか、大学を卒業した娘がいるとかわかるようになってきました。医者になっている者はいますがそれこそ忙しい時期のようです。他はやっと卒業するとか、入学したという状況です。縁結びは今から増えてくるように思います。

〈田野理事〉

貴重なご意見ありがとうございました。これから頑張って行ける勇気が湧いて参りました。是非とも皆様のご協力をお願いいたします。25年度予算に100万円計上させていただいております。パーティーなり皆さんの意見を聞く場なりを25年度中に必ず開催したいと思いますので是非ご協力をお願いいたします。私が島根県出身なものですから縁結びの神様のお膝元ということもあり「縁結び」という名前にしましたがあまり良くなければすぐに変えたいと思います。

〈高木会長〉

縁結びの発端は、子どもたちが適齢期になって相手がなかなか見つからないため、仲間内でチャンスを作ろうじゃないかということから始まっています。男性の場合はいいかもしれませんが、女性はいろいろありますからゆっくりという訳にはいきません。支部長さんにはサイトに沢山登録してもらうことと、事業としスタートしているというインフォメーションをお願いしたいと思います。

◇議題 6. 福岡大学医学部同窓会烏帽子会
第 32 回総会案内

武田卓先生より説明あり

原案通り承認

在外研修報告

在外研修留学報告

大阪大学乳腺内分泌外科 多根井 智 紀 (22 回生)

2011 年 4 月より約 2 年半、テキサス州ヒューストンにある Houston Methodist Research Institute の Cancer Research・Nanomedicine に研究留学する機会を頂きました。私は大阪大学乳腺内分泌外科に所属しており、乳癌幹細胞の研究に従事してきました。また、その分野にて最前線の研究者・腫瘍内科医である Jenny Chang 教授と話をする機会を得て留学をすることになりました。

ヒューストンは、緯度でいうと日本の奄美大島に相当する位置にあり、一年のうちの約半年は夏で、7 月から 9 月は 40 度以上の酷暑が続きます。テキサスといえばカウボーイのイメージが強いかもしれませんが、ヒューストンは石油、宇宙、医療を主とした産業を持つ全米第四位の都市です。ヒューストンには、私の所属施設を含めて MD Anderson 癌センター等の 13 病院と 50 以上の医療関連施設が集まるメディカルセンターがあり、アジア・ヨーロッパ等の多国籍の研究者が働いています。私の研究については、トリプルネガティブ乳癌の細胞や患者組織を皮下移植したマウスモデルを用いて乳癌幹細胞の発現の解析を行い、種々の薬剤を用いて癌幹細胞に対する治療効

果を測定することや、乳癌肝転移のマウスモデル(脾臓に癌細胞を注入し肝転移を形成させます)を使用してシリコンでできた nanoparticle を合成させた抗癌剤に対する動物治療実験、さらにそれらに伴う細胞実験を行っていました。研究室では週 1 回のミーティングで結果報告を求められますが、それ以外にも自分の裁量で自由に興味ある研究を行うことも可能です。また、研究施設には多くのアシスタントやマネージャーが働いており、FACS 等の専門器械の操作や動物管理のサポートが受けられ、自分の研究に専念することができます。留学の当初は、研究のセットアップに時間がかかり、早い英語でのコミュニケーションに慣れるのに苦労しましたが、同じ境遇の色々な国籍の研究者達と仕事をするうちに親友になることもでき、おかげさまで公私にわたり充実した留学生活を送ることができました。

最後に今回の留学に際し多大な御支援を頂いた福岡大学烏帽子会や新谷国際財団、NCI Physical Science and Oncology Center Program に改めて深く感謝致します。



ボストン研修を終えて

北 村 由依子 (M3)

物心ついた時から興味があった海外の医療や文化、特にアメリカのような大きな先進国ではどのように医療が行われているのか、また日本との違いは何かといったことを実際に自分の目で見て学ぶため、今回、ボストンでの海外研修に参加させていただきました。現在ボストンのMassachusetts General Hospitalの研究所でI型糖尿病の研究をされている米良先生のもとを訪問させていただき、I型糖尿病についての講義を受けたり、研究を行っているところを見学したり、他にもDana-Farberという病院の施設を案内していただいたりしました。

研究所には、それぞれ分野ごとで多くの研究員の方々がいらっしやり、私達を温かく迎え入れてくださいました。人種は違えども、各国から優秀な人材が集まり、皆で一つの同じ目標に向かって研究を積み重ねているという空間を共有できて、胸に熱いものを感じました。採血をしてHLA-2抗体が自分達の細胞に発現しているのかどうか調べるための実験では、高機能な機械を使いながら細かい作業を自分達で行っていき、一つ一つの工程のちょっとした誤差が実験の結果に大きく影響するということを実感しました。

最も印象に残ったのは、その研究所で毎週行われているミーティングのあとの研究員の方々との談話でした。日本では出産が病気ではないので健康保険適用外になっている一方、アメリカではそれとは別に妊婦を守るための出産保険が存在し、妊娠する前に入ることが可能だという話が出され、日本とアメリカの医療の違いといえば、日本には全国民を対象とした保険制度がある一方、アメリカにはそのような制度がなく無保険者が増えている、ことくらいしか知らなかったのが驚きました。アメリカではそれが当たり前であり、日本にそのような保険がないことが信じられないと言われ、確かに妊娠・出産することは女性にしかできないことなので、女性の権

利として認めてもらえればもっと女性が出産・子育てしやすい社会につながるのではないかと思います。

今回の研修を振り返ってみると、毎日が新鮮で刺激的なことばかりで、自分の未熟さや意識の甘さを痛感するとともに、研究員の方々が互いに協力して患者を救うための方法を様々な角度から懸命に導き出そうとしている姿を目の当たりにして、身の引き締まる思いがし、更なる医学への関心と勉強への意欲が高まりました。また自分はなぜ医師を志そうと思ったのか、どんな医師になりたいのかということを改めて熟考する良い機会となりました。アメリカでは病院施設は一種のブランドのようであり、膨大な資金がかけられていて、医療にかかるお金の余裕さ、移植するための新鮮な臓器の豊富さ、そして病気を治すための研究への国民の協力の積極性の高さに日本との大きな差を感じました。今回の研修で学び、感じたことを忘れずに、将来、何らかの形で海外の医療に携われる医師となれるよう、今後も怠ることなく目標に向かって精進していきたいと思います。

最後になりましたが、このように充実した研修を企画してくださった烏帽子会の先生方、現地で丁寧なお世話をしてくださった米良先生御夫妻、研究員の方々、そして快く送り出してくれた両親に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



ボストン医療研修

大 西 菜 月 (M3)

8月13日から約一週間の間、同窓会の皆様のお力添えで同級生の北村由依子さん、中田安香さんと3人でボストンへ海外研修に行かせていただきました。

私たちは、Massachusetts General Hospital にて I 型糖尿病の研究をしておられる福岡大学の先輩である米良利之先生のもとで、研究室を見学したり研究についてお話を伺ったりしました。

まず施設を見学した際、部屋が明るい雰囲気、研究者の方々も気さくに話しかけてくださり自分の持っていた研究室のイメージとは全く違っていて驚きました。

また、研修中には米良先生に教えていただきながら血液中の HLA 抗体を調べる実験をする機会をいただいたのですが、自ら実験をしてみることで 1 つ 1 つの細かい手順を繰り返し正確にこなしていくことの難しさを感じることができました。これまで、医療というと臨床のイメージが強かった私にとって、今はあまり触れる機会のない研究について知ることができた貴重な体験だったと思います。

この他にも、Dana-Farber の研究室を見学させていただいたり、日本からボストンへ研究者として来られている方々が集まるバーベキューに参加してお話を聞かせてもらったりなど多くの刺激を受けたのですが、1 つ印象的だったのがお会いした多くの先生方から「将来何科に入りたいのか」と尋ねられたことで

す。この質問に、私は曖昧にしか答えることができなかったのですが、後から、アメリカでは一般的に入りたい科を決めて入学するのだということを知って意識の違いを感じさせられ、また、なぜ医師を目指したいのか?と改めて考えさせられました。

また、研究室の最終日にミーティングに参加させていただいた際に少しディスカッションをする機会があったのですが、私は緊張もありその場でほとんど発言をすることができませんでした。この時、しっかりと自分の主張をアピールできるようになってほしいと、米良先生からお言葉をいただきました。

学生の私たちは、普段からディスカッションをする機会はありませんが、この経験を通して、将来チームワークが必要とされる場で働いていく私たちにとって出来るだけ日頃から自分の意見や考えを主張していく練習をしていくことも大事なのではないかと気付かされました。

一週間という短い期間ではありましたが、今回の研修を通して実際に海外での医療に触れてみて、医学生としての自覚を持ち「なんとなく勉強する」ではなく色々なことに積極的に取り組んで行くよう心がけようと思いました。

今回現地でお世話をくださった米良先生ご夫妻、また研修の機会を設けてくださった烏帽子会の先生方、このような貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。

ボストン留学を終えて

中 田 安 香 (M3)

サラリとした心地よい風の吹く 8 月、私達はアメリカ合衆国マサチューセッツ州ボストンにあるマサチューセッツ総合病院 (MGH-Massachusetts General Hospital) を訪れました。MGH では Research Fellow として 1 型糖尿病に関する研究をなさっている米良先生のもとで約 1 週間研修を行いました。研

究室では脾臓移植や、それに関する抗原抗体反応を利用したレギュラトリ T 細胞の実験を行っており、お話を聞かせてもらうだけでなく実際に自分の血液を採取、使用して実験に参加させてもらい、とても貴重な体験をさせて頂きました。研究の内容や目的を理解するためには、2 年次に学習した免疫学や組織

学、生理学の基礎医学の知識を同時に応用して考えることが必要であり、当時、断片的に学習していた各科目の内容がリンクし、研究というものを初めて身近に感じることで学問の連続性を実感することができました。

実習の最終日には研究室で毎週行われているというミーティングに参加させて頂きました。そのスタイルは各人がその週に行った研究の内容と結果を報告し合い、疑問に思う点や足りない点を指摘し合うもので、そこには上司や部下といった関係を感じさせない積極的な議論を見ることができました。各人の積極的な姿勢の他に印象的だったのは彼ら一人一人の言葉です。研究室にはアメリカ人のみならず日本人である米良先生をはじめ、中国やオランダ等、様々な国から研究者が集っており、それぞれの母国語の訛りで堂々と話すその姿は、“アメリカでは流暢に話さないといけない”という英語に対するある種のコンプレックスを抱いていた私にとってとてもショッキングな出来事でした。もちろん、コミュニケーションをとる場合や魅力的なプレゼンテーションにとって発音やアクセントといった流暢な英語は大切かもしれませんが、研究者としての必要な英語はそういうこと以上に、適切に情報を伝え、受け取ることでできる正確な専門知識としての英語なのではないかと強く思いました。また、ボストンでの研修の最後には MGH で働いている日本人の先生方や多くの研究者の方々とお会いする機会があり、たくさんの興味深いお話を聞くことができました。先生方は渡米するきっかけや滞在年数、出身校は本当に様々で、例えば、海外でしかできな

い研究について、逆に日本でもできること、同僚のパーソナリティや組織の在り方を考慮した上で、アメリカという国で働くとはどういうことか、働くために必要な資格やきっかけ、注意しなければならないこと、アメリカの魅力的な点、日本人として求められること、など、それぞれの先生から個人レベルで感じることを生の声として聞くことができました。今回私がこのプログラムに応募するきっかけになったのは将来海外で働いてみたいという漠然とした気持ちでした。しかし、実際に働いている先生方が今までやってこられた努力や、アメリカでの臨床医として大変さ、ロングウッド医療・学術地区に集まる名立たる病院や研究室を実際に目にすることで、ぼんやりとしていたビジョンを少し絞ることができたように思います。今、自分には何が足りないのか、自分のどういう点が力として使えるのか、そしてこれから何をしなければいけないのか。1 週間という短い期間ではありましたが改めて自分を見つめなおす機会として、そしてこれからの目標を掲げる上でとても大切な期間になったことには間違いありません。この研修を無駄にすることなく必ず糧とし、日々の目の前のやるべきことをひとつずつこなしながらこれからの医学部での勉強に精を出し、励みたいと思います。

最後に、ボストンで大変お世話になった米良先生御夫妻、Dr.Faustman、研修のきっかけを与えてくださった小玉先生、林先生、烏帽子会の皆様、そして理解を示し、経済的な負担をしてくれた両親にこの場をかりて厚く感謝申し上げます。



在外研修援助金受給者一覧

姓名	年度	回	勤務先	地位役職	予定期間	留学先	支給額
米 良 利 之	23	25	福岡大学医学部 再生・移植医学	ポスドク	1110-1309	Massachusetts General Hospital	20 万円
多根井 智 紀	23	22	大阪大学医学部 乳腺内分泌外科		1206-1306	Methodist Hospital Research Institute, Baylor College of Medicine	20 万円
四 元 房 典	24	準会員	福岡大学医学部 生化学	講 師	1211-1410	Sanford-Burnham Medical Research Institute, La Jolla, CA, United States	20 万円
桑 原 豪	24	27	福岡大学医学部 心臓血管外科	福 大 大学院生	1304-1503	New Haven, Connecticut Department of Surgery, Section of Vascular Surgery Yale University School of Medicine	20 万円
中 里 玲	24	M5	福岡大学医学部 医学科	学 生	130304- 130310	Massachusetts General Hospital 28 回生米良利之先生引受	10 万円
井 上 菜保子	24	M5	福岡大学医学部 医学科	学 生	130304- 130310	Massachusetts General Hospital 28 回生米良利之先生引受	10 万円

福岡大学医学部同窓会

在外研修援助金 募集要項

①長期研修

対 象：正会員、準会員（本会会費完納を条件とする）で医学の研究
または医療技術の習得のため、3ヶ月以上外国に留学する者

申請方法：所定の申請書により留学出発3ヶ月前までに提出のこと

提 出 先：〒814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1

福岡大学医学部同窓会事務局

Tel：092-865-6353（直通）代表 092-801-1011（内線 3032）／Fax：092-865-9484

援 助 金：1 件 20 万円を限度とし、年間 5 件以内

発 表：本人に文書にて連絡

そ の 他：①受給者は帰国後その成果を同窓会会報に発表すること

②研修中に生じた問題について同窓会は関与しない

③申請書は同窓会事務局に請求又は烏帽子会ホームページからダウンロードのこと

②短期研修

対 象：学生会員（本会会費完納を条件とする）で人格、志向に秀で
学業成績優秀（総合点 80% 以上）な 3 年生以上

申請方法：所定の申請書により提出のこと

提 出 先：〒814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1

福岡大学医学部同窓会事務局

Tel：092-865-6353（直通）代表 092-801-1011（内線 3032）／Fax：092-865-9484

援 助 金：1 件 10 万円を限度とし、年間 5 件以内

発 表：本人に文書にて連絡

そ の 他：①受給者は帰国後その成果を同窓会会報に発表すること

②留学先、留学時期は必ずしも希望に添うとは限らない

③研修中に生じた問題について同窓会は関与しない

④申請書は同窓会事務局に請求又は烏帽子会ホームページからダウンロードのこと

誌上公開講座

内科診断学の心

— William Osler とその時代に学ぶ —

福岡大学総合診療部 准教授 鍋 島 茂 樹 (13 回生)



去る9月6日、同窓会主催の M4 激励会において「内科診断学の心」というタイトルで講演する機会をいただいた。この稿はそれをもとに書いた学生や若い医師へのエールである。

今から 100 年以上前、内科学の父 William Osler は医学生に対し Listen to the patient, he is telling you a diagnosis と 説 いた。Listen to the patient というのは、一般に問診の大切さを説いた教えと言われるが、私は聴診をはじめとした、診察全体を指すものと思っている。「言葉にならぬ声を聴け」といったところであろう。100 年前の内科診断学は、1 つの診断を下すのに大きな労力と時間を要し、確定診断は手術か剖検に頼るしか無かった。この稿に言う「内科診断学の心」とは、そういった医学の先達の努力を尊重し、生かし、誇りをもって「診断」してほしい、という若い人へのメッセージである。内科医は手にメスを持たぬが、心に「内科診断学」というメスを持つべきである。

Sir Willam Osler は 1849 年に英国領カナダで生まれ、米国に活躍の舞台を移し、1919 年に英国で没した医学界の巨人である。彼はモントリオールのマギル大学医学部を卒業後、英国にわたりそこで血小板を発見して一躍脚光を浴びている。その後、母校に帰り病理学の研究を続けたが、29 歳の時転帰が訪れる。内科病棟の主任を任されたのである。以後、彼は米国のペンシルバニア大学、ジョンズ・ホプキンス大学へと移るが、彼の興味は一貫して病理学と内科学から様々な疾患の病態を理解することに注がれる。若い時代の Osler は実に週に 1、2 回の剖検を行っていたようである。常人では考えられぬエネルギーが彼を動かしていたと言って良い。感染性心内膜炎の疣贅が細菌でできていること、Osler 結節、Osler 病 (遺伝性出血性毛細血管拡張症)、マラリアの病型分類など数知れぬ発見が彼の努力から生まれた。

もう一つの彼の偉大な業績は、研究に費やす努力と同じ努力を医学教育に注ぎ、現代の医学教育の基礎を造ったことである。彼は、講義棟から学生を連れ出し、実臨床の場で「生身の患者」を通じて学生を教え続けた。「昼間は患者のそばについて眼で見なさい、そして夜になってから本を読みなさい」と学生に説いている。結婚するまでは病院に泊まり込み、学生やレジデントと生活を共にしていたそうである。当時 X 線や心電図は普及しておらず、血液検査といっても血算くらいで、生化学検査は大変手間をとる仕事であった。それも全て医者が行う。じっくりと患者を観察し、ちょっとした変化を察知することが正確な診断につながった。これはまさしく職人芸 (art) であり、教科書を通じて学べることではない。有名な逸話が残っている。おそらく研究会であろうが、前胸部の広い範囲に拍動を認め、起坐呼吸と大動脈弁閉鎖不全の音を呈する患者が、集まった医師達を困惑させていた。Osler は光を当てて患者の背中をよく観察し、左肩甲骨の脇に拍動を発見してすぐに胸部の大動脈瘤と診断した。今で言う Stanford A 型の解離性大動脈瘤かもしれない。彼は「最高の教育とは患者自身からうけるものである」という信念を持ち続けた教育家であった。

Osler の教育は当時の米国では革新的であったが、実は英国で長年行われていた「徒弟制度」的側面を多分に持っていた (カナダは当時英国領であった)。Osler の偉大な点は、それまでの医学の徒弟制度をより科学的に、誰においても同じ教育が受けられるような制度に昇華させたことといってよい。Osler の伝記を読むと、当時の医学生は 1 学年 20、30 人と少なかったため、マンツーマンの教育が行いやすかったのは事実であろう。しかし、彼は医学生をグループに分け、系統的に各科ローテーションを行い実臨床を学ぶ、今でいう Bedside learning (BSL) を始めている。Osler 以後、米国では彼の意志を継ぐ教育家を多数輩出し、より多くの学生に対して標準化された BSL の制度を造り上げていった。福大医学部の臨床

教育も、まさにその路線に乗っている。今後はさらにBSLの時間数が増えるとも聞いている。

Oslerは、研究にひたすら没頭する冷徹な学者ではなく、多くの歴史上の英雄がもつ徳性を豊に持っていた。すなわち、快活さ・実行力・ユーモア・リーダーシップ・溢れる愛情といった徳である。彼は特に若い頃は、受け持ち患者の剖検を積極的に行うことで自分の診断能力を磨き、病態を研究することに熱中していたが、目の前の患者に対しては、限らない愛情と尊厳、そして生きる力を注いだ。これも有名な逸話だが、重症の百日咳を患った子供の診察に、たまたま学位授与式用のガウンを着て訪れたところ、子供が眼を丸くしてその姿を喜んだそうである。それを察するとOslerは40日間、彼がなおるまで、玄関でそのガウンに着替えて彼の部屋を訪れたという。おそらく学問的興味や単なる仕事として患者をみる以上に、人間としての尊厳を重視する態度を持ち続けたのであろう。「君たちはビジネスとしてではなく、天職としてこの職業に就いている。我々がここにあるのは自分のためではなく、他の人々の人生をより幸せにするためである」と彼は言っている。特筆すべきは、彼の診察自体が、患者の暗く沈んだ心を癒し、昂揚させる一種の精神療法の要素を持っていたことであろう。当然、診察の持つこの不思議な効用に彼も気づき、積極的に利用していたと思われる。Oslerにおいては、医学研究と人類愛が見事に結実したまれに見る人格であったといつてよい。

現代において、内科は細分化され、検査は分業となり、CTが「切らずして」病変を見つけることが可能となった。患者は早めに疾患を発見されるため、医学生は、教科書に書かれているような典型的所見を気軽に経験することは少ない。それでも学生は、指導医とともに何度も病棟で診察を練習させてもらうべきである。初診外来で、ほとんど話を聞かず、体に触れもせず、「では、CTをとりましょう」と切り出す若い医師を、我々は笑うことはできない。内科診断学とは、「いかに適切で精密な検査を行い、それを解析することである」と思っている内科医が実に多いし、そういった側面があることも否定できない。私たち総合診療部の外来を訪れた患者から、時に「こんなに診察されたのは初めて」と聞き、嬉しくなることがあるが、おそらく数十年前までは、問診と身体診察は内科診断学において今よりもっと大きな比重が置かれていたはずだ。気軽に検査はできず、医者の子供で診断していかなければならない厳しさがそこにはあった。

翻って、私たちはOslerをはじめとする先達の作り上げてきた「古典的」内科診断学をどう生かせばよいのか。実は今こそそれが重要となり、脚光をあびる時代であると思う。100年前は、確定診断を得るためには手術や剖検に頼るしかなかったが、今では即座に測定が可能な血液検査、内視鏡、MRIやPET-CT、遺伝子検査など、最先端の医療技術により自分の診断が確認できる。つまり、現代はその気になりさえすれば、診察の「職人芸」を向上させることが可能な時代なのである。加えて、今後高齢者医療や在宅医療が中心となるにつれ、開業医は高級機器に頼らず初期診断をつけ、トリアージと初期治療を行った上で大きな病院に送るかどうかを決める必要に迫られてくるであろう。身一つと診察道具を持って、患者に相対したときに私たちは何ができるか、よく考えなくてはならない。

The practice of medicine is an art, based on science. これはOslerの名言の一つである。内科診断学は、過去の有名無名の医学者による、困難な研究に支えられた職人芸 (art) である。どのような内科の専門に進もうと、過去、内科は1つであったことを忘れてはならない。1人の患者を前にしたとき、まず診断をつけること、これは内科医としての使命であり、良き伝統でもある。外科医が手術をマスターするのに年月がかかるように、内科診断学も同じく長い時を要する。想像力を必要とするため、向き不向きもあるかもしれない。おそらく一生かかっても、全てをマスターすることはできないであろう。学生諸君や研修医諸君は、ぜひとも一度はOslerの伝記を読んでもいただきたい(参考文献)。この陽気で好奇心旺盛な内科学の巨人とその時代が、現代の医療界に問いかけてくるものが果てしなく大きいことがわかるであろう。内科診断学とは、長い歴史の上で発展・淘汰されてきた実践の学問である。そしてそれは、内科医としての生き方そのものであることがきつとわかるはずである。

参考文献

- 1: 龍児監訳 ウィリアム・オスラー ーある臨床医の生涯 ーメディカル・サイエンス・インターナショナル社
- 2: 日野原重明著 医の道を求めて ーウィリアム・オスラー博士の生涯に学ぶー 医学書院

学生対策報告

同窓会主催 国試対策講演会報告

烏帽子会副会長 重 田 正 義 (2回生)

昨年に引き続き、本学第8回卒業生で、東京女子医科大学産婦人科准教授の牧野康男先生による国試対策講演会を行いました。

母校の国試の成績向上に少しでも役立てばと、東京女子医大での経験をもとに

①国試の現状について（関東では、その情報や対策は九州よりリードしている）

②その対策として、牧野式高速勉強法の紹介（彼が考案し、女子医大で実践され効果が上がっている方法）

と、題して、10月11日18時よりメディカルホール同窓会ラウンジにてM4の学生30名の参加のもと、昨年と同様の具体的で説得力のある講演そして質疑応答が、2時間にわたって行われました。

先生は、52ページにも及ぶ膨大な配布資料を用意されており（お見せできないのが残念です）この資料には、高速勉強法とその解析、特に国試体験とこの勉強法に対する、卒業生や合格者（女子医大生、福大生）からの、激励文集とアドバイス集には、現役生ならではのさまざまな意見が述べられており、心のこもった内容で、学生には一度読んでもらいたい資料です。

（希望者には、同窓会事務局にて、いつでも配布できるようにしております。）

福大でも、昨年からの牧野式高速法を始めた人々には早速成果が出てきております。（資料より）

国試の成績には、毎年その結果に一喜一憂しており、同窓の皆様も又父兄の皆様にとっても、特に関心の深いことであろうと思います。同窓会事業の中でも、学生対策特に国試の成績向上に対しては、力を入れるべき事業と考えており、成績のふるわない時には、その都度理事会として意見をまとめ、学部に対して要望や申し入れを行ってまいりました。具体的な事業としてはM6に対する夏期セミナーの開催（希望者と成績下位者が対象）、M4、M6に対しての激励会、国試当日の援助等を毎年行ってまいりました。しかし、最近国試の成績は低迷を続けており、皆様にご心配をおかけしているのが現状です。

この状態を少しでも改善すべく、牧野先生の協力もあり、今年より他の学生対策事業とは別にこの国試対策講演会を新規に行うことにいたしました。この牧野式高速勉強法は、成績が思うように上がらない学生、国試に不安があり自分の勉強法に今ひとつ自信のない学生には光明になるのではないかと思います。

理事会としましては、当分の間、毎年牧野先生にお願いして、この講演会を続けていきたいと思っております。

会長が、常々申しておりますように、国試合格100%を目指して、同窓会はさまざまな方法で学生を応援していきたいと思っております。今後も同窓の皆様のご協力お願い致します。



平成 25 年度烏帽子会主催福岡大学医学部 M4 年生激励会を終えて

専務理事 竹 下 盛 重 (3 回生)

2013 年 9 月 6 日 (金曜日)、薬院、タカクラホテルにて M4 年生 50 名、M4 主副担任 4 名、烏帽子会員 10 名とともに M4 激励会を行いました。今回は M4 年生の出席が半数以下となりましたが、M5 年生 7 名が来て M4 年生と話をしていただき、出席者は有意義であったと思います。

会は、初めに現在福岡大学病院総合診療部、鍋島茂樹先生 (13 回生) に「内科診療学の心」というテーマで約 1 時間のお話を頂きました。先生は、この中で近代医学教育の礎を築いたウィリアム オスラーを紹介され、その生涯を話されました。この中で病院実習の重要さを、また彼の残した名文を紹介されたのが印象的でした。We are here not to get all we can out of life for ourselves, but to try to make the lives of others happier. 「われわれがここにあるのは自分のためではなく、他の人々の人生をより幸せにするためである」学生ともども感動いたしました。医学部生、医師になっても考えるテーマと思います。

その後は、七隈祭医学部委員長である宮本達貴君が司会進行役となり、懇親会が行われました。

その中で主担任の中川尚志教授、副担任の仁田原慶一准教授、山下眞一准教授、吉永康熙講師、林英之副会長 (眼科学教授)、重田正義副会長、高木忠博会長等よりアドバイスを頂きました。BSL 前に病気を理解すること、十分に勉強し M5 を充実させること、国家試験合格率を上げるのはみなさんであること、大学を盛り上げてほしいこと、また各自遊び、友人を大切に、じっくり勉強し、いい医師をめざしてほ

しいという内容があったと思います。二田哲博先生からはとにかく卒業して大学に残りじっくり勉強することの大切さを言われていました。また、M5 学生からは、M4 での過ごし方についてアドバイスをいただきました。また本年 3 月にボストンに 2 週間短期留学した M5 の中里玲さん、井上菜保子さんより、充実した日々を詳細に報告していただきました。M4 学生からは九山、西医体の報告、七隈祭実行委員による開催、協賛の挨拶がありました。最後は全員で校歌斉唱、そしてラグビー部吉田昴平君の一本締めで終わりました。

M4 年生の出席が、危惧したように半数を切りました。出席を促しました。また、鍋島先生よりも勧誘していただきました。来ていただいた M4 年生は、食事までできて、友人と話せて、また 2 次会も参加し楽しい日であったと思います。また、講演の内容もこれからじっくりかみしめていただけたと思います。欠席の方々は、消極性の塊のようにも見えました。すこし言い過ですが、これからの学生生活、また医師になってからも先輩として不安が残ります。福大医学生は、明るく積極性を持ち、思いやりを持って、友人の輪を広げる試みをしていただきたいと思います。

今回は M5 年生が 7 名来ていただき、M4 年生は交流が広がったと思います。M6、M4 激励会は、学内の先輩や卒業生が集い、医学の面白さや難しさを教えてあがることを目的の 1 つとしております。各科の勧誘になっても問題はありません。ぜひぜひ、学内の卒業生はその気を出して参加していただきたいと思います。学生を可愛がってください。



新入生歓迎会 5月17日(金) 福新楼にて



《M6 国試激励会》

7月4日(木)

ホテルモントレ ラ・スール福岡にて

講師：川浪大治先生(平成10年卒 21回生)

東京慈恵会医科大学

糖尿病・代謝・内分泌内科 講師

会報第54号(2013年春号)会員寄稿参照

「卒後15年目を迎えて」



《M4 激励会》

9月6日(金)

タカクラホテル福岡にて

講師：鍋島茂樹准教授(13回生)

福岡大学病院総合診療部

「内科診断学の心」

本誌(会報第55号)24～25ページ

誌上公開講座 参照

支部便り

筑後支部便り

筑後支部評議員 宿 里 芳 孝 (10 回生 医療法人宿正会 宿里医院院長)

皆さん、楽しんでおられますか。筑後支部便りをお届け致します。

長年筑後支部評議員をさせていただき、私も同窓会では中堅クラスになりました（そろそろ評議員を若手と代わったらどうねと、嬉しい声も先輩からちらほら聞こえてきています）。

さて、同窓会活動の中、たくさんの先輩、後輩の方と知り合うことができました。今まで単に車で通り過ぎただけだった病院も、同窓生関連の病院だと知ってからは、親しみの感情が出てくるのは私だけではないと思います。卒業後、出先の病院に勤務すると、そこには色々な大学の出身者がいて、勉学や仕事に励んでいるわけです。その病院に、たとえ科が違って同窓生がいたら、在学中には全く知らなかった先輩や後輩に親しみを感じたものです。そして、開業してからは先輩後輩という関係だけではなく、同窓生という一つのまとまった関係性が、なお一層意識されてきました。そういう中で平成 25 年度支部総会には、新たに自家勤務として開業された杉田稔先生 (19 回生) と境大介先生 (25 回生) が出席され、そして松岡

弘文先生 (8 回生) に「小児泌尿器の話題」として特別講演をしていただきました。また、高木忠博同窓会会長と重田正義副会長には、ご多忙の中毎年出席していただき、本部の情報やこれからの同窓会の在り方などにつき、熱弁を披露していただいております。

皆さんも同窓会に参加してみてもはどうでしょうか。

きっと、何らかの繋がりや親しみの感情が生まれてくることと思います。また各地区なりの小グループでの同窓会も開かれていますので、支部総会集合写真と小グループでのワンショットも送らせていただきます。

筑後支部総会は、毎年 6 月第 2 土曜日に、久留米にて開催されております (来年 6 月 14 日ハynes久留米ホテルにて開催予定)。

気軽にご出席していただきたく、心よりお待ちしております。

また、同窓会本部年会費を 100% 納入していただき、誠にありがとうございます。この場を借りまして、お礼申し上げさせていただきます。皆さん、ありがとうございます。そして、皆さん、楽しみましょう。



同窓生交歓

縁 と 恩

— 剣道部創立 40 周年記念祝賀会 —

社会医療法人財団白十字会 白十字病院 副院長（外科） 渕 野 泰 秀（8 回生、剣道部 OB 会主務）



「小手一つ!」審判の赤い旗が三本揚がり 1981 年西医体準々決勝、鹿児島大学対福岡大学は終わりました。「ベスト 4 に入って皆で全医体へ行こう!」を合言葉に、合宿や一日二部練習など十分な強化練習を行いチ

ーム全員で万全の態勢で臨んだ西医体でした。しかし、この時も準決勝進出は叶いませんでした。当時、西日本では無敵であった鹿児島大学との準々決勝。2 対 2 で迎えた大将戦で我が福岡大学大将の尾上英俊（6 回生）は先に一本（小手）を取りました。これまで何度もはね返されてきた準々決勝突破でしたが、その瞬間は準決勝進出ばかりか「鹿児島大学を破っての優勝」の文字が頭を過りました。しかし試合時間残り僅かとなった時に相手の大将（全学九州大会個人準優勝者）は、チーム全員が一行に並んで正座して応援していた我々のすぐ目の前で小手を打ちました。すると 3 人の審判の旗が揃って上がったのです。目の前で観ていた我々は明らかに小手から外

れた部位の打突であるとわかりましたが、さすがに全学九州大会個人準優勝者、気と剣と体の一致が見事であったため一本と認められたのです。打たれた本人（尾上英俊）が打突がはずれていたことを一番わかっていますが、剣道では他の競技のように判定に抗議することはできません。それでもまだ一本対一本なのでもう一本取れば勝つことができます。しかし、我々全員の気落ちが伝わったのでしょうかその直後、立て続けにもう一本（冒頭：小手）を取られしまい試合終了となってしまったのです。またしても準決勝進出（＝全医体の出場権）は叶いませんでした。それから 30 年以上過ぎましたが今でもこの場面は鮮明に思い出されます。チーム全員で同じ目標に向かって取り組んだ学生時代のクラブ活動。チームで結束することの素晴らしさや喜び、何事も真剣勝負では勝つのも負けるも紙一重、勝負には「あや」がある、その僅かな差に実は大きな実力差が隠されている。そんなことを色々と学ぶことができました。学生時代のことを思い出す時、医学の勉強のことよりも先にクラブ活動の思い出が浮かんでくるのは私だけではないと思いま



す。縁があつて剣道部という場に集まり、先輩後輩と共に熱い毎日を過ごしました。未熟であつた自分を大人に育ててもらつたという感謝、恩を感じます。

福岡大学医学部剣道部の創立は1973年（昭和48年）4月です。吉田 隆 OB 会会長（2 回生）のもとに5年毎に記念パーティーを行ってきました。今回は40周年を迎え、平成25年3月23日、タカクラホテル福岡におきまして祝賀会を行いました。クラブ発足当時は屋外で靴を履いて稽古していたことや、巫女（みこ）さんみたいな赤い袴で団体戦に出場して注目を浴びたことなど昔の武勇伝を聞くのは心地よい時間でした。剣道部 OB、OG は医学部はもちろん薬学部、人文学部、看護学科など多くの学部、学科出身の108名に及びます。今回は40名（現役含む）が集まり、遠方につくば市、和歌山から駆け付けてくれました。

なぜこんなに学生時代の剣道部に思いが強いのか？

なぜ祝賀会にこんなに多くの OB、OG が集まるのか？学生時代、熱い日々を共に過ごした懐かしい先輩後輩に会いたいのはもちろんですが、今もこれからも我々の心の拠り所である剣道部が立派なまま続いて欲しいという思いがあるからでしょう。我々がそうであつたように現役の後輩たちにもそんな剣道部で育てられて欲しいと心から思うからでしょう。御恩報謝。「先輩は後輩を自慢できる、後輩は先輩を尊敬できる」そんな関係、そんな気持ちが脈々と繋がる伝統のあるチームそして OB 会となることを切に願っています。

現役の後輩たちには学生時代、何かに打ち込んで欲しい。そしてそこから机の上では学べないことを沢山学んで欲しい、色んなことを感じて欲しい。そんな充実した深みのある豊かな学生生活は自ずと勉学にも良い影響をもたらすはず。そして人間的に深みのある立派な医者になるはず。



吉田 隆 OB 会会長（2 回生）



松永 彰教授（3 回生）



小川 厚教授（6 回生）



〈左から〉長谷川(旧姓：坂本)倫子先生 9 回生、藤井正博先生 8 回生、筆者、増山(旧姓：新関)久仁子先生 10 回生

会員寄稿

日本の文化発見 in Tokyo

正 木 稔 子 (26 回生)

東京は文化の街。

美術、芸能、音楽、健康、エクササイズ、食。。。

学ぼうと思えばたくさんの情報を得ることができる街、それが東京だと、最近になってやっと気付いた。医者 11 年目、上京 11 年目。やっと余裕ができ、医学・医療以外のことにも目を向けることができるようになってきた。

東京と言えば、江戸文化。たくさんの歴史的建造物などが保存されている。

例えば、赤門。加賀藩の大名屋敷の門をそのまま残し、大学の門にしているのが東京大学赤門だ。

そして、江戸城跡。天守閣や大奥があった場所が公園として保存されており、無料で散歩ができるようにしてある。

最近では、このような歴史的な場所を見て回るのが趣味になった。

そして、私が最近熱中しているのは日本の歴史、特に医の歴史。

日本人の精神性を支えた一部でもある「儒教」をご存知だろうか。その中に「才の学」と「徳の学」の両方を会得するよにという言葉がある。才の学とは技術、徳の学とは道德心。日本人が技術と同じくらい大切にしてきたのは…道德心だった。江戸時代、日本が鎖国をしている中やってきた外国人たちは、日本人の識字率の高さ、教養の高さ、そして何より思いやりの心に驚嘆し惚れ込んだそうだ。

医学に関していうと、江戸時代は漢方医学が中心だったが、蘭学という形で西洋医学が入ってきている。皆さんご存知の解体新書は、蘭学に魅せられた当時の外科医、杉田玄白が罪人の死体の腑分けに立ち合いオランダ語の解剖学書の正確さに圧倒され、これを翻訳したものだ。解体新書が翻訳された場所、東京築地には看板が立っている。その後明治維新と共に日本には西洋医学が流入し、医療は飛躍的な発展を遂げた。このように医学は発展してきた

わけだが、道德心を根底に据えた江戸医師の心意気はとても素晴らしかった。西洋医学も漢方医学も学び実践してきた先輩方が残した精神性を学ぶにつれ、医者とは何たるか、どうあるべきか、今一度原点に戻る思いだ。現代でも日本人らしい精神性を忘れず、技術を更なる高みへ引き上げたいものだ。私が学生の頃に漠然と思い描いていた「いい先生」。その具体的な理想像がここにあった。その一端を紹介したい。

緒方洪庵(1810 年～ 1863 年)自身の開いた適塾で教えていた「扶氏医戒之略」が現代にも残る。

- 医師はおのれの利益のためでなく、患者を救うために全力を尽くすべきだ。
- 患者の社会的身分、貧富の差を問わず治療すること。
- 医療の目的は患者を治すことであり、診療に当たっては偏った考えに囚われず、むやみにあれこれ試さず、謙虚になって細心の注意を払うべきである。患者を練習台にしないこと。
- 医学・医術の研鑽を積むだけでなく、日ごろから言動には注意を払って患者の信頼を得なければならない。流行の衣服をまとい、でたらめな奇説を唱えて評判を得ようとするのは恥知らずな行為だ。
- 昼間診察した患者について夜間にカルテを作成し、医学書などで検討を加え、症例研究することを日課にすること。
- 往診はいい加減に何回も往くのではなく、一回に詳しく診察すべきである。だが、尊大になって往診を嫌がるのは言語道断である。
- 技術が及ばず不治の病となった者には、苦しみをよく理解し、最善を尽くすのが医の仁術。顧みないのは人道に反す。言語、容姿全てを用いて仕えよ。
- 治療費がいかに安くなるかを考えよ。命を救っても、その命を繋ぐ資金を奪っては意味がない。
- 世の中の人に好かれるようにしなさい。どんなに技

術が素晴らしく、言動が厳格であっても、人々に信頼されなければ力を発揮することはできない。患者の秘密を他言してはならない。篤実温厚で、酒・女・金に溺れるな。

- 同業者を敬し、愛すべし。他医の批判をしない。悪口を言うのは自分の器の小ささである。先輩は敬重し、後輩は親愛せよ。
- 治療についての話し合いは少人数で行う。メンバーがどんな人物であるかを見極めて選べ。ひたすら患者の安全を求め、自説に固執して争論になってはいけない。
- 患者が「医者を変えようと思う」と相談してきたら、前医に相談し経過をたずねた上で引き受ける事。しかし誤った治療を発見したら手遅れにならないように対処すること。

参考:「緒方洪庵～幕末の医と教え～」中田雅博著

洪庵は大坂で医業を始めるとともに、適塾という蘭学の塾(医学も教える)を創立し、次世代の教育も行っていた。上記の倫理観・道德心をベースに、技術を上乗せしていったのだろう。

東京には全国各地からドクターが集まっている。技術だけでなく医の倫理についても語り深め合うドクターや医学生さんがたくさんいて日々互いに研鑽している。

東京オリンピックが7年後に決まり、世界の目が否が応でも日本に向く期間が始まった。話題になった

「おもてなし」とは、技術を通して徳の心を発信することだと感じている。周知のことだが、もてなし=Hospitalityという言葉が派生してHospital=病院となった。これから7年、私たちは医療の分野で何ができるだろう。

さて話は変わりますが、福大の先輩の温かさを痛感したので少し書かせてください。2010年4月から一般の方を対象とした健康維持のための食事セミナーを開催するようになり、好評をいただいています。福大同窓会の有信会の忘年会でこれをやって欲しいと依頼を頂戴し、その講演を聞いた他学部同窓生が自身の経営する銀座のカフェでセミナーをして欲しいと持ちかけて下さいました。現在2か月に一度、講演内容に沿った食事も提供していただき、開催しています。先日、このセミナー初回に11回生の中村浩先生(バスケット部の大先輩)が山口県からわざわざ東京銀座に駆けつけて下さいました(写真)。先輩の温かさに感謝が尽きません!都心でのセミナーは初めてで緊張していたのですが、中村先生のおかげで伸び伸びと講演することができました。中村先生の上京の際ご支援くださったご家族の方々にも、この場をお借りしまして御礼申し上げます。

同窓生の方々からのご連絡を楽しみに致しております。

toshikomhrmt228@yahoo.co.jp



11 回生の中村浩先生と



銀座のセミナーの様子

TOP TEN Students (ΦBK Students) に期待して

福岡大学医学部心臓・血管内科学 教授 朔 啓二郎 (第1回卒業生)

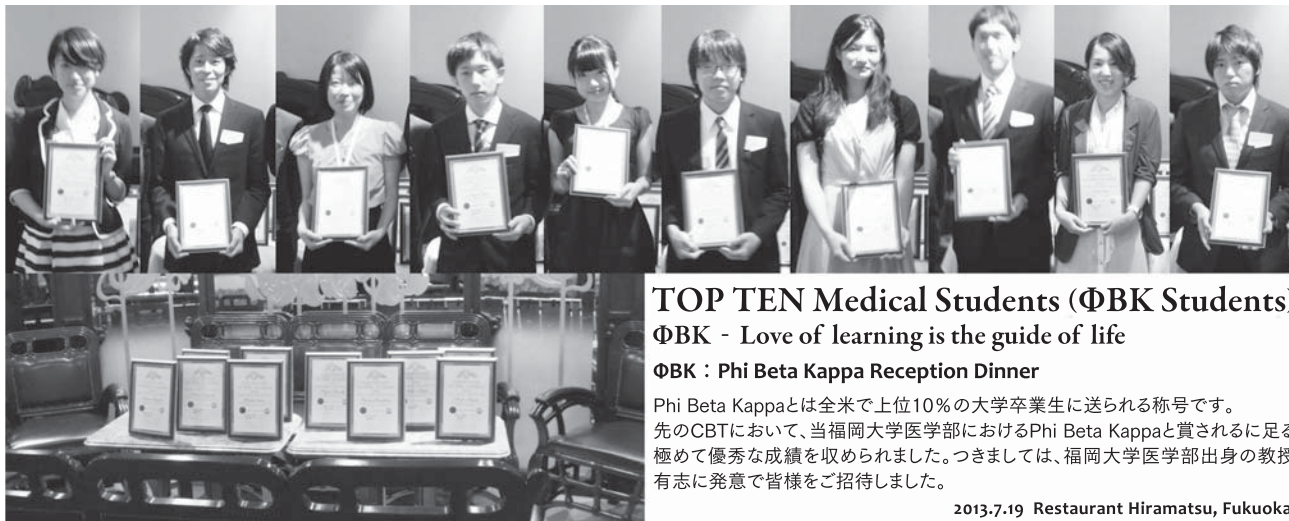
ΦBK - ギリシア語の標語 "Love of learning is the guide of life." (学究への情熱は人生の道案内である)

ΦBK: Phi Beta Kappa Reception Dinner の説明:

Phi Beta Kappa (ファイ・ベータ・カッパ) とは全米で学業成績上位 10% の大学卒業生に贈られる称号です。先の CBT (M4 年時) において、当福岡大学医学部における Phi Beta Kappa と賞されるに足る極めて優秀な成績を収めた新 5 年生のトップ 10 名を、福岡大学医学部出身の教授有志で、2013 年 7 月 19 日夕刻、レストラン「ひらまつ」に、ご招待しました。

この習慣は欧米では日常的に行われているものです。私は昨年、アイルランドの学会に出席しましたが、その時、学業成績トップの学生を囲んで格式のある大学内のレストランの一段上のテーブル席で、教

授陣がマントを羽織って正装で学生と食事をするそうです。この感覚は日本にはないものですが、少しでも学生さんのモチベーションを高く維持して、学問の世界に身を向けさせるに有効な手段のようです。特に医学生の場合、生体の現象を垣間見るような感覚を持って、大学生生活を送っていただきたい。そんな祈りや願いを込めて、トップ 10 の学生さんと、卒業生の教授 6 名と食事をしました。場所も福岡で最高級レストラン「ひらまつ」です。さすが、彼らの雰囲気はいいですね。澁刺として。私は誰にでも自信をもって彼らを紹介できるものを感じました。医学界にデビューする日を心待ちにしています。



TOP TEN Medical Students (ΦBK Students)

ΦBK - Love of learning is the guide of life

ΦBK: Phi Beta Kappa Reception Dinner

Phi Beta Kappaとは全米で上位10%の大学卒業生に送られる称号です。先のCBTにおいて、当福岡大学医学部におけるPhi Beta Kappaと賞されるに足る極めて優秀な成績を取られました。つきましては、福岡大学医学部出身の教授有志に発意で皆様をご招待しました。

2013.7.19 Restaurant Hiramatsu, Fukuoka

Congratulations

*We wish you a lot of SUCCESS,
always act with PASSION!!*

*Alumni Professors
Fukuoka University School of
Medicine*



6年間を振り返って

福岡新水巻病院 卒後臨床研修センター 竹山文徳 (36 回生)

こんにちは。現在福岡新水巻病院研修医 1 年目の竹山文徳です。

この度は、学生時代に九州山口医科学生柔道大会団体の部優勝 2 回、個人の部優勝 4 回、準優勝 1 回、西日本医学生柔道大会団体の部優勝 2 回、全日本医科学生柔道大会団体の部準優勝 1 回という成績を踏まえた上で、烏帽子会で初となる烏帽子会特別賞という名誉ある賞を頂きとても光栄に思います。正直なところ、僕がこのような賞を頂くというのも身に余る気持ちでいっぱいですが、僕の学生時代にやったことが評価されたということに対し、とても満足しております。

さて、学生時代の僕はというと、今考えても本当に不真面目な学生であったと思います。何事も中途半端に物事を片付け、ここには書けないようなことも色々とやってきました。しかし、柔道だけは 6 年間続けて良かったです。中学、高校、大学と柔道を続けてみて、つらいこと、悲しいこと、涙を流したこともありますが、その分試合に勝った時の喜びは何事にも代えられないものがありました。一つだけ後悔しているものがあるとしたら、全国医歯薬獣医柔道大会に出場した際、団体戦の準決勝で代表戦となり負けたこ

とです。正直なところ、その大会自体今までに出たことがないくらい大きな大会であり、負けてもいいという気持ちで臨んだ部分はありましたが、実際負けてみると今までにないくらいの悔しさがこみあげ、なによりもチームの皆に申し訳ない気持ちでいっぱいでした。精神的にもとても病みました。この時に柔道は引退しようと思いましたが、同級生や周囲の方々に説得され、6 年生の最後まで柔道が続けることができました。その結果、6 年生の最後の西医体を優勝という最高の形で終えることができました。この時の優勝は今まで幾度の試合をやってきましたが、その中でも一番感極まるものがありました。

今思うと 12 年間の柔道人生において僕は本当に仲間にも恵まれていたのだと思います。福岡大学に入学し、医学部柔道愛好会に入り、竹下先生をはじめとする OB の方々、先輩、後輩、コーチの方々と、柔道を通して様々な人達と出会い、色々な価値観を学ぶことによって、現在の僕があるのではないかと思います。これからは今まで僕に関わってくれた全ての人に、そして一番は僕をここまで育ててくれた親に感謝の意を表し、医師として全力で患者様と向き合い日々精進していきたいと思います。



キャンパスだより

《烏帽子会賞受賞者一覧》

愛好会名	受賞者	受賞対象
柔道愛好会	竹山文徳	特別表彰
水泳愛好会	高岡千容	平成25年度第52回九州山口医科学生体育大会 女子100M バタフライ第1位
水泳愛好会	高岡千容	第64回西日本医科学生総合体育大会 女子50M.100M バタフライ第2位
アーチェリー愛好会	麻生裕美子	第27全日本医科学生アーチェリー競技大会女子シングルラウンド第3位
アーチェリー愛好会	大西, 兎玉, 吉田	第27全日本医科学生アーチェリー競技大会男男子団体戦第3位
柔道愛好会	団体表彰	第64回西日本医科学生総合体育大会団体戦優勝
柔道愛好会	団体表彰	全医体柔道部門王座決定大会団体戦準優勝
柔道愛好会	団体表彰	平成25年度第52回九州山口医科学生体育大会団体戦優勝
柔道愛好会	梅谷啓太	平成25年度第52回九州山口医科学生体育大会軽量級個人戦優勝
硬式テニス愛好会	団体表彰	第64回西日本医科学生総合体育大会女子第3位
フットサル愛好会	団体表彰	平成25年度第52回九州山口医科学生体育大会優勝
準硬式野球愛好会	団体表彰	平成25年度第52回九州山口医科学生体育大会優勝
弓道愛好会	高橋篤史	平成25年度第52回九州山口医科学生体育大会個人準優勝



烏帽子会賞を受賞して

柔道愛好会 梅谷 啓太 (M5)

まずは今回烏帽子会賞をいただきましたことを、心より感謝申し上げます。

この度、慣れない実習と段々と近付いてくる試合ならびに国試という精神的負荷の中で初の優勝を成し

遂げたという喜びは、大学受験合格の瞬間にも劣らぬものがあり、なんとも言葉になりません。これもひとえに練習を付けてくださったコーチや顧問の竹下先生を始めとするOBの先生方や柔道愛好会の部員、

個人練習に付き合ってくれた弟、そしていつも我々学生を応援してくださっている卒業生の先生方のお陰だと思います。

僕は中高から柔道をやっていましたが、あまり体格に恵まれず、今まで柔道で活躍することができずに今に至りました。大学におきましても、入学当初はなかなか勝てず、三年、四年でなんとか三位は取りましたが、優勝は経験したことがありませんでした。そんな燦る僕の起爆剤となったのは、今振り返るとやはり昨年の弟・梅谷聡太の九山重量級優勝だったように感じます。今回、弟は三位という結果に終わりましたが、次は絶対に一発力マしてくれると思います(笑)。繰り返しとなりますが、今回は烏帽子会賞

をいただきまして、本当にありがとうございました。次は来年度、ついに迎えることになる国家試験でも先生方に喜ばしい報告ができますよう努力をしていきたいと思っています。



競泳を続ける気持ち

水泳愛好会 高岡千容 (M5)

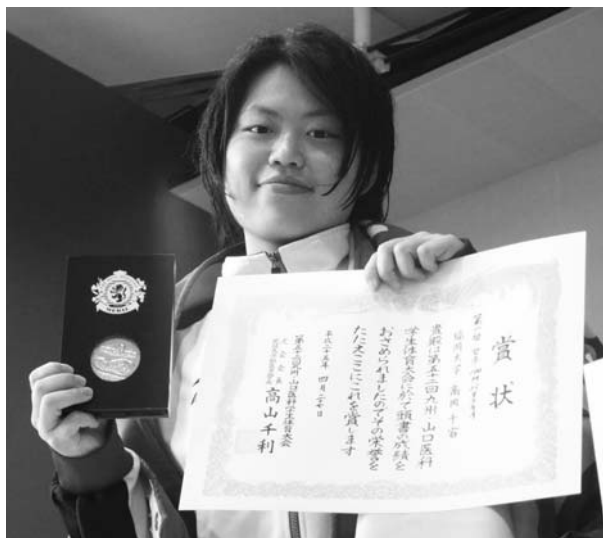
こんにちは、水泳部の高岡千容です。烏帽子会報に文章を載せていただける機会をいただきましたので、今回は私にとっての競泳という競技について少しお話をさせていただきます。

私がこの競泳という競技で一番好きな部分は、自分自身を自分でマネジメントし、大会で自分の最高のパフォーマンスを引き出すことです。大会前から

の体調管理、食事、泳ぎの感覚など様々なことに気を付けます。そして、うまくマネジメントでき、自己ベスト更新や、満足のいく結果が出た時は本当にうれしいです。タイムが出なかった時は、何が悪かったか反省し、次にどうしたらよいか考えるのが好きです。

私には大きな目標があります。それは90歳まで競技を続けることです。私は医学生の大大会の他に、小学校からの水泳仲間と一緒にマスターズという大会に出ています。マスターズでは80歳のおばあちゃんや90歳のおじいちゃんが泳いでいます。その中にはマスターズ世界記録を樹立される方もいます。初めてマスターズに参加した時に、こういった姿を目にして、衝撃的でした。本当に感動しました。すごい、カッコいい!!

勿論、カッコいい御年配スイマーになれるのは、まだまだ先の長い話ですが、細々でも競泳を続けていきます。また、自分に打ち勝ち、満足できるレースがもっともっとできるようになりたいです。



フットサルを通じての体験

福岡大学医学部フットサル愛好会 佐倉悠介 (M5)

大変報告が遅くなりましたが、第52回九州山口医科学学生体育大会で優勝することができました。

みなさん九山にフットサル部門があることを知っていますでしょうか？九山でフットサルが始まったのは5年前からで、初めは各大学メンバーも少ないし、レベルもバラバラでした。年々大会のレベルは上がり、どの大学も盛んにフットサル活動をしているのですが、福岡大学はまだ正式な愛好会ではなく、選手も他の部活と掛け持ちをしている人が多いため、これまで練習回数は不定期で少なく、選手全員が集まれるのは大会前の練習くらいでした。前は先輩の力もあり、優勝することができていましたが、3連覇を目指して挑んだ前回大会は予選リーグ敗退かつ試合内容もよく

ない無残な結果でした。この悔しさを胸に、今大会に向け、今までのような少ない練習回数や甘い練習内容を改め、厳しく、激しい練習を続けてきました。そして挑んだ今大会、見事優勝することができました。部員が少なく、正式部員がいなかったため、2年間キャプテンを続けてきましたが、最後に最高の結果を出すことができ、大変でしたが本当に今まで頑張ってきて良かったと思いました。一緒に戦ってきた仲間、御支援、御指導してくださった先輩方、多大な支援をして頂いた烏帽子会の諸先生方の皆様に感謝しています。本当にありがとうございました。今後とも御指導、御鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



準硬式野球部

準硬式野球部 主将 大 澤 慎 (M4)

私たち準硬式野球部は、第五十二回九州山口医科学生体育大会準硬式野球部門において優勝し、二連覇を成し遂げることができました。

しかし、今年の優勝への道のりは険しく、昨年、九山での優勝後の西日本医科学生体育大会では、二回戦コールド負けという悔しい結果を残しました。私たちは、その一敗から、当たり前のことを当たり前になす事の難しさを痛感しました。そしてこれは、技術ではなく、人間性に直結すると考え、もう一度初心にかえり、野球ができることに感謝の気持ちを持つと団結し、冬の練習に取り組みました。学校がグラウンドを貸してくださること、OBの先生方から支援していただけること、試合をしてくれる相手がいることな

ど、野球ができることに感謝の気持ちを持つことで、私たちは変わりました。これにより、克己心を養うことができ、しんどくても逃げない強い心を持ち、冬を越すことができました。そして春、迎えた九山では、感謝の心を持った部員、マネージャーが一つになり、戦い抜くことができました。この優勝には、暖かく支援して下さったOBの先生方、辛い時に助け合った仲間、支えてくれたマネージャー、一人も欠けることなくできたからこそ実現できたものだと感じております。

準硬式野球部は、これからも感謝することを忘れず、努力を積み重ねていきます。このような賞を授与できたことを誇りに思います。本当にありがとうございました。



続けてよかった

弓道愛好会 主将 高橋 篤 史 (M4)



この度私は九州山口医科学生体育大会弓道部門で準優勝を運良くしたので、その部活動について書かせていただきました。

私が通っていた高校には弓道部はなく、あまり馴染みのないものでした。そんな物珍しさとチーム医療が重視される昨今どうなのかとも思いましたが、限り無く個人プレーに近い弓道という競技が自分に合いそうなので入部しました。ただ競うだけでなく芸術性も兼ね備えた先輩方の弓道を見学したときは自分も早くこうなりたい追いつきたいと思う一心でした。ただ、私

が2年生の時に持病のクローン病が再燃してしまい体力筋力共に低下し、とても弓を引くどころではなくなったことがありました。正直しんどいのもう止めたくなったのですが、主将を任されてしまったこと、目標とした人に追いついてもいいこともあり、地道ながら続けていきました。その結果としての今回の九山での準優勝はとても嬉しいものでした。勉強も指導力も引率力もないダメな主将の私でしたが、運良くなるとかなるかもしれない可能性があるということだけは唯一後輩へ残せた物なのかなと思います。



特別表彰 36 回生の竹山文徳先生



医学祭実行委員長 M4 宮本達貴さん



福岡大学医学部同窓会 烏帽子会賞褒賞基準

1. (目的) 福岡大学医学部同窓会 (以下烏帽子会という) は、その所属する学生会員が対外試合または活動において優勝し或いは優秀な成績を収めた場合、その団体または個人に対し、その栄誉を讃え賞状、賞金または賞品を授与してこれを表彰する。
2. (賞の名称) この賞を烏帽子会賞という。
3. (対象試合等) 表彰の対象となる試合または活動とは、概ね西日本医科学生総合体育大会、九州 山口医科学生体育大会を含むその規模以上のものを云い、内容は単に体育関係のみならず学術、芸術等多岐に亘るものとする。
4. (申告書の提出) 烏帽子会は烏帽子会が表彰に値すると認めた団体または個人、或いは自ら表彰を希望する団体または個人に対し、烏帽子会賞申告書及び賞状の写しをを提出させる。
5. (表彰の審査) 表彰の審査及び賞金額の決定は理事会において行う。
賞金または賞品の支給基準額は別表の通りとする。
6. (表彰) 表彰は総会、理事会等の席上で行い賞金を授与し会報に掲載する。
付則 1, この基準は平成 18 年 4 月 1 日から施行する。
2, この改正基準は平成 22 年 1 月 15 日から施行する。

別表) 烏帽子会賞の基準

		西医体：A	全医体：B	九山：B	その他：C
団 体	優 勝	A-1 50,000 円	B-1 30,000 円	B-1 30,000 円	C その都度判定
	準優勝	A-2 40,000 円	B-2 20,000 円	B-2 20,000 円	その都度判定
	3 位	A-3 30,000 円			
	4 位	A-4 20,000 円			
個 人	優 勝	A-3 30,000 円	B-2 20,000 円	B-2 20,000 円	C その都度判定
	準優勝	A-2 20,000 円	B-1 10,000 円	B-1 10,000 円	その都度判定
	3 位	A-1 10,000 円			
	4 位				

※但し烏帽子会賞は同一大会に 1 個とし、上位の成績を表彰する
参加チーム数の少ない場合は理事会にて減額することができる
5 年連続受賞においては殿堂入りと賞する

該当する団体・個人の方へお願い

大会の結果をお知らせください

申請用紙は同窓会事務局にあります

顧問の先生の署名・捺印、賞状が必要です

ご不明な点をご遠慮なく同窓会事務局におたずねください

福岡大学医学部同窓会諸表

平成 24 年度収入支出決算

区分	科 目	24 予算 :A	24 決算 :B	24 決算予算比較	決 算 内 訳
収 入	繰 越 金	11,212,467	11,212,467	0	
	会 費 収 入	27,197,000	30,802,265	▲ 3,605,265	入会費 :5,029,550 学年会費 :5,513,020 年会費 :20,107,295 準年会費 :152,400
	手 数 料 収 入	0	46,307	▲ 46,307	
	協 賛 金 収 入	0	0	-	
	雑 収 入	120,000	21,144	98,856	グッズ売上ほか
	預 り 金 収 入	60,000	42,200	17,800	給与源泉徴収税
	積 立 金 繰 入	0	0	-	
	仮 受 金	0	0	-	
	合 計	38,589,467	42,124,383	▲ 3,534,916	
支 出	給 与	3,330,000	3,054,830	275,170	パート 2 名
	旅 費	2,020,000	1,884,282	135,718	役員旅費 :345,280 評議員会 :435,360 私大連絡会 :500,322 その他 :603,320
	事 務 用 品 費	350,000	298,578	51,422	
	印 刷 費	2,752,000	2,154,375	597,625	会報 :1,932,605 その他 :221,770
	通 信 運 搬 費	1,500,000	967,963	532,037	電信電話 :80,812 会報 :537,027 切手葉書 :124,000 その他 :226,124
	設 備 工 事 費	240,000	210,000	30,000	契約維持 :210,000
	什 器 備 品 費	240,000	0	240,000	
	事 業 費	16,530,000	9,821,726	6,708,274	総会費 :226,200 講師招聘援助費 :130,000 支部活動費 :1,100,180 研究奨励賞 :1,676,009 在外研究援助金 :800,000 新入生歓迎会 :739,865 M4 激励会 :754,733 縁結び :728,606 M6 国試激励会 :38,560 M7 激励会 :126,000 学会寄付 :500,000 夏期セミナー :478,678 慶弔 :280,700 夏期セミナー講師料 :530,000 国試応援 :182,763 烏帽子会賞 :420,000 学生行事援助 :145,000 M5 白衣贈与 :844,432 支部祝儀 :120,000
	会 議 費	2,000,000	1,296,639	703,361	理事会、会長懇話会 :643,743 評議員会 :446,647 その他 :206,449
	公 租 公 課	70,000	0	70,000	
	雑 費	3,000,000	1,103,993	1,896,007	渉外費 :221,764 その他 :1,103,993
	預 り 金 支 出	60,000	46,100	13,900	給与源泉徴収税
	引 当 金 積 立	4,000,000	8,000,000	▲ 4,000,000	
	協 賛 金 支 出	0	0	-	
	借 入 金 返 却	0	0	-	
	予 備 費	2,497,467	0	2,497,467	
	合 計	38,589,467	28,383,486	9,750,981	
	収 支 差 引	0	13,285,897	▲ 13,285,897	

平成 24 年度残金処分

残金額（収支差引額）	13,285,897 円
事業積立金積立	500,000 円
刊行物積立金	1,000,000 円
次年度繰越	11,785,897 円

平成 24 年度特別会計決算

	事業積立金	医学教育研究基金	刊行物積立金	合 計
前年度より繰越	83,176,308	10,000,000	2,051,340	95,227,648
本年度増加額	4,000,000	1,230,000	6,000,000	11,230,000
本年度受取利息	47,051	1,375	0	47,426
本年度減少額	▲ 137,253	0	0	▲ 137,253
本年度未決算額	87,086,106	11,231,375	8,051,340	106,368,821

平成 24 年度事業報告と平成 25 年度事業計画

年 度 項 目	平成 24 年度 事業計画	平成 24 年度 事業報告	平成 25 年度 事業計画	
	予算 (A)	実績 (B)	予算 (C)	C - A
① 会 報 の 発 行	3,184,000	2,469,632	3,262,900	78,900
② 総 会 の 開 催	200,000	226,200	300,000	100,000
③ 支 部 活 動 援 助	1,550,000	1,230,180	1,550,000	0
④ 研 究 奨 励 賞	1,500,000	1,676,009	1,500,000	0
⑤ 在 外 研 究 援 助	1,500,000	800,000	1,500,000	0
⑥ 学 生 対 策	2,800,000	1,659,158	2,800,000	0
⑦ 白 衣 贈 与	1,300,000	844,432	1,000,000	▲ 300,000
⑧ 国 試 対 策 費	2,000,000	1,191,441	2,000,000	0
⑨ 支 部 祝 儀 贈 与	230,000	120,000	230,000	0
⑩ 学 生 行 事 援 助	800,000	565,000	800,000	0
⑪ 学 会 寄 付	1,000,000	500,000	1,000,000	0
⑫ 慶 弔 贈 与	300,000	280,700	300,000	0
⑬ グ ッ ズ 作 製	0	0	0	0
⑭ 会 員 名 簿 発 行	0	0	0	0
⑮ パニックマニュアル発行	0	0		0
⑯ 奨 学 金 貸 与	0	0	0	0
⑰ 縁 結 び	0	0	1,000,000	1,000,000
⑱ 保険コンサルティング	0	728,606	0	0
合 計	16,364,000	12,291,358	17,242,900	878,900

平成 25 年度収入支出予算

区分	科目	24 予算	25 予算	25 年度予算摘要	25 予算-24 予算
収 入	繰 越 金	11,212,467	11,785,897		573,430
	会 費 収 入	27,197,000	27,747,000	入会費 :5,190,000 学年会費 :4,446,000 年会費 :17,980,000 準年会費 :131,000	550,000
	手 数 料 収 入	0	160,000	保険コンサルティング紹介手数料	160,000
	協 賛 金 収 入	0	0		0
	雑 収 入	120,000	50,000	グッズ売上ほか	▲ 70,000
	預 り 金 収 入	60,000	50,000	給与源泉徴収税	▲ 10,000
	積 立 金 繰 入		0		0
	仮 受 金		0		0
	合 計	38,589,467	39,792,897		1,203,430
支 出	給 与	3,330,000	3,330,000	パート 2 名	0
	旅 費	2,020,000	2,020,000	役員旅費 :600,000 評議員会 :500,000 私大連絡会 :420,000 その他 :500,000	0
	事 務 用 品 費	350,000	400,000		50,000
	印 刷 費	2,752,000	2,821,000	会報 :2,461,000 その他 :360,000	69,000
	通 信 運 搬 費	1,500,000	1,500,000	電信電話 :100,000 会報 :600,000 切手葉書ほか :800,000	0
	設 備 工 事 費	240,000	240,000	維持契約 :210,000 その他 :30,000	0
	什 器 備 品 費	240,000	240,000		0
	事 業 費	16,530,000	17,330,000	総会費 :300,000 講師招聘援助費 :350,000 支部活動費 :1,550,000 研究奨励賞 :1,500,000 在外研究援助金 :1,500,000 新入生歓迎会 :900,000 M 4 激励会 :900,000 M 6 激励会 :900,000 M 7 激励会 :100,000 M 5 白衣贈与 :1,000,000 国試応援費 :2,000,000 支部祝儀贈与 :230,000 学生行事援助 :800,000 学会寄付 :1,000,000 慶弔贈与 :300,000 縁結び支援費 :1,000,000 事業予備費 :3,000,000	800,000
	会 議 費	2,000,000	2,000,000	理事会、会長懇話会 :700,000 評議員会 :500,000 各種委員会 :300,000 その他 :500,000	0
	公 租 公 課	70,000	70,000	法人県市民税	0
	雑 費	3,000,000	3,031,500	税理士報酬 :31,500 渉外費 :1,000,000 寄付金 :1,000,000 その他 :1,000,000	31,500
	預 り 金 支 出	60,000	50,000	給与源泉徴収税	▲ 10,000
	引 当 金 積 立	4,000,000	4,000,000		0
	協 賛 金 支 出	0	0		0
	借 入 金 返 却		0		0
	予 備 費	2,497,467	2,760,397		262,930
	合 計	38,589,467	39,792,897		1,203,430
	収 支 差 引	0	0		0

医局長・医長名簿 (○内の数字は福大医学部卒業回)

(平成25年10月現在)

	医 局 長	病棟医長	外 来 医 長
〔福大病院〕			
腫瘍・血液・感染症内科	戸 川 温	勝 屋 弘 雄 ②⑦	後 藤 敏 孝
内 分 泌 ・ 糖 尿 病 内 科	野見山 崇	村 瀬 邦 崇	永 石 綾 子 ②⑦
循 環 器 内 科	上 原 吉 就 ⑩	池 周 而 ②④	藤 見 幹 太 ⑩
消 化 器 内 科	竹 山 康 章 ⑮	横 山 圭 二 ②②	阿 南 章 ⑩
呼 吸 器 内 科	原 田 泰 志	石 井 寛	廣 田 貴 子
腎 臓 ・ 膠 原 病 内 科	三 宅 勝 久	安 部 泰 弘 ②①	小 河 原 悟 ⑦
血液浄化療法センター		笹 富 佳 江 ⑬	
神経内科・健康管理科	合 馬 慎 二 ②③	深 江 治 郎	福 原 康 介 ②⑥
精 神 神 経 科	田 中 謙 太 郎 ②⑤	縄 田 秀 幸 ②⑥	内 田 直 樹
〃 (デイケア)			吉 田 公 輔
小 児 科	太 田 栄 治 ①⑨	井手口 博 ①⑨	吉 兼 由 佳 子 ①⑨
消 化 器 外 科	佐々木 隆 光 ①⑨	武 野 慎 祐	吉 田 陽 一 郎
呼吸器・乳腺内・小児外科	濱 武 大 輔 ②⑩	平 塚 昌 文 ⑬	柳 澤 純
整 形 外 科	金 澤 和 貴	白 地 仁 ②③	中 村 好 成 ②②
形 成 外 科	大 山 拓 人 ②⑥	川 上 善 久	木 村 広 美
脳 神 経 外 科	野 中 将 ①⑥	福 田 健 治	武 村 有 祐 ②③
心 臓 血 管 外 科	西 見 優	峰 松 紀 年	松 村 仁
皮 膚 科	古 賀 文 二 ②③	徳 永 哲 夫	伊 藤 宏 太 郎 ②⑥
泌 尿 器 科	松 岡 弘 文 ⑧	中 村 信 之 ⑩	古 屋 隆 三 郎 ②③
産 婦 人 科	小 濱 大 嗣 ⑮	讃 井 絢 子 ②④(産科)	宮 原 大 輔 ②⑩
〃		勝 田 隆 博 ③⑩(婦人科)	
眼 科	梅 田 尚 靖 ①⑧	外 尾 恒 一 ②④	有 田 直 子 ①⑤
耳 鼻 咽 喉 科	樋 口 仁 美	福 崎 勉 ②⑩	市 川 大 輔 ②⑤
放 射 線 科	高 良 真 一 ①⑧	赤 井 智 春 ②⑦	品 川 喜 紳
麻 酔 科	香 取 清 ①③	平 田 和 彦 ①②	平 田 和 彦 ①②
歯 科 口 腔 外 科	瀬 戸 美 夏	喜 多 涼 介	青 柳 直 子
病 理 部	久 野 敏		
臨 床 検 査 部	松 本 直 通 ①④		
輸 血 部	熊 川 みどり		
救 命 救 急 セ ン タ ー	梅 村 武 寛	田 中 潤 一	
総合周産期母子医療センター		中 村 公 紀 ①⑥(新生児部門)	
〃		廣 瀬 龍 一 郎 (3階南病棟)	
総 合 診 療 部	武 岡 宏 明 ②⑤	武 岡 宏 明 ②⑤	鍋 島 茂 樹 ①③
東 洋 医 学 診 療 部	久 保 田 正 樹 ①④		
薬 剤 部			
臨床研究支援センター			
卒後臨床研修センター			
臨床工学センター			
〔筑紫病院〕			
筑紫病院 (総医局長)	久 部 高 司 ①⑦(消化器内科)		
循 環 器 内 科	東 條 秀 明 ①⑦	岡 村 圭 祐 ②④	森 憲 ②①
内 分 泌 ・ 糖 尿 病 内 科	工 藤 忠 睦 ②③	永 迫 久 裕 ③①	小 林 邦 久
呼 吸 器 内 科	宮 崎 浩 行	赤 木 隆 紀 ②①	児 玉 多 ②⑦
消化器内科・内視鏡部	※久 部 高 司 ①⑦	高 津 典 孝	小 野 陽 一 郎 ②⑥
小 児 科	井 上 貴 仁 ①⑤	吉 村 和 子 ②①	橋 本 淳 一 ①⑨
外 科	三 上 公 治 ①③	石 橋 由 紀 子 ②③	平 野 公 一 ②①
整 形 外 科	秋 吉 祐 一 郎	櫻 井 真 ②⑦	城 島 宏 ①④
脳 神 経 外 科	坂 本 王 哉 ②⑧	相 川 博	伊 香 稔
泌 尿 器 科	平 浩 志 ①⑤	平 浩 志 ①⑤	宮 嶋 哲 匡 ①⑨
眼 科	佐 伯 有 祐	佐 伯 有 祐	佐 々 由 季 生
耳 鼻 い ん こ う 科	山 野 貴 史 ①⑧	山 野 貴 史 ①⑧	杉 山 喜 一 ③①
放 射 線 科	藤 井 暁 ①⑤		
麻 酔 科	生 野 慎 二 郎 ⑧		
病 理 部	原 岡 誠 司		
救 急 部	村 田 厚 夫		

(筑紫病院の※印は、循環器内科、内分泌・糖尿病内科、呼吸器内科、消化器内科の代表医長)

教育職員人事（講師以上）

（○内の数字は福大医学部卒業回）[平成 25.4.2 ～ 25.10.1]

区分	所 属	資 格	氏 名	発令日	摘 要
退職	歯 科 口 腔 外 科 学	講 師	高 橋 宏 昌	25. 9.30	
	消 化 器 内 科	講 師	江 口 浩 一	25. 9.30	
	耳 鼻 咽 喉 科	講 師	宮 城 司 道 ⑨	25. 9.30	
昇格	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学	診 療 教 授	山 下 眞 一	25.10. 1	
	脳 神 経 外 科 学	診 療 教 授	東 登志夫	25.10. 1	
	総 合 診 療 部	診 療 教 授	鍋 島 茂 樹 ⑬	25.10. 1	
	感 染 制 御 部	診 療 教 授	高 田 徹	25.10. 1	
	移 植 医 療 部	診 療 教 授	白 石 武 史	25.10. 1	
	産 婦 人 科	診 療 准 教 授	城 田 京 子	25.10. 1	
	筑 紫 放 射 線 科	診 療 教 授	東 原 秀 行 ⑥	25.10. 1	
	筑 紫 救 急 部	診 療 教 授	村 田 厚 夫	25.10. 1	
	病 理 学	講 師	二 村 聡	25.10. 1	
	循 環 器 内 科	講 師	杉 原 充 ⑭	25.10. 1	
	循 環 器 内 科	講 師	今 泉 聡 ⑮	25.10. 1	
	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	講 師	濱 武 大 輔 ⑯	25.10. 1	
	脳 神 経 外 科	講 師	勝 田 俊 郎	25.10. 1	
	病 理 部	講 師	濱 崎 慎 ⑰	25.10. 1	
	臨 床 検 査 部	講 師	松 本 直 通 ⑱	25.10. 1	
	心 臓 ・ 血 管 内 科 学	講 師	八 尋 英 二 ⑲	25.10. 1	
	腎 臓 ・ 膠 原 病 内 科 学	講 師	安 部 泰 弘 ⑳	25.10. 1	
	整 形 外 科 学	講 師	西 尾 淳 ㉑	25.10. 1	
	皮 膚 科 学	講 師	伊 藤 宏 太 郎 ㉒	25.10. 1	
	産 婦 人 科	講 師	伊 東 裕 子 ㉓	25.10. 1	
	筑 紫 小 児 科	講 師	井 上 貴 仁 ㉔	25.10. 1	
	筑 紫 循 環 器 内 科	講 師	東 條 秀 明 ㉕	25.10. 1	
	筑 紫 脳 神 経 外 科	講 師	新 居 浩 平 ㉖	25.10. 1	

編 集 後 記

唐突ですが、その昔「結婚は人生の墓場」と、仕事優先と息巻いていたのはもっぱら男性だったと思います。最近では、女性がリードしないと話が進まない、という、草食系男子の存在が話題になりました。結局、時代が変わっても、男性がその気にならないと結婚は成立しないというのが世の常なのでしょうか？

以前留学していた頃、広く欧米人と話していて、日本の見合い制度にいたく感動されその制度の合理性に絶賛の言葉をもらったことがあります。それが、個人主義といわれるアメリカ人の言葉でしたから驚いたことを鮮明に覚えています。西洋といえども、家系だの伝統だのがある high society ではあらかじめ matching できた相手との出会いが、結婚を前提として、しかも親の承諾までもれなく付いてくるのですから、確かにそうですね！

さて、かれこれ一年前から、当烏帽子会ではこのお見合い制度に着手しました。

結婚したい！と熱望しているご本人。結婚させたい子供を抱えるようになった会員の方。どちらでも良いけれど、機会があれば、興味はあるんだけど、という曖昧な方々。エントリーをお待ちしております。どうも男子の反応が鈍いんです。

未婚の私が言うのも何ですが、（武末）

ΦBK - ギリシア語の標語

"Love of learning is the guide of life."

(学究への情熱は人生の道案内である)



TOP TEN Medical Students (ΦBK Students)

ΦBK - Love of learning is the guide of life

ΦBK : Phi Beta Kappa Reception Dinner

Phi Beta Kappaとは全米で上位10%の大学卒業生に送られる称号です。
先のCBTにおいて、当福岡大学医学部におけるPhi Beta Kappaと賞されるに足る
極めて優秀な成績を収められました。つきましては、福岡大学医学部出身の教授
有志の発意で皆様をご招待しました。

2013.7.19 Restaurant Hiramatsu, Fukuoka

Congratulations

*We wish you a lot of SUCCESS,
always act with PASSION!!*

*Alumni Professors
Fukuoka University School of
Medicine*



第33回烏帽子会総会の開催日が決まりました

開催日

平成26年7月5日

会場

ソラリア西鉄ホテルにて

詳しくは次号(2014年春 Vol.56)でご案内いたします。

烏帽子会会報第55号

発行日 平成25年12月6日
発行人 高木 忠博
編集人 大慈弥裕之

発行所 〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1
福岡大学医学部同窓会
電話:092-865-6353(直通)
092-801-1011(代表) 内線[3032]
FAX:092-865-9484
E-mail:eboshi@minf.med.fukuoka-u.ac.jp

印刷所 ロータリー印刷㈱
福岡市中央区長浜2-1-30
電話:092-711-7741
FAX:092-711-7901